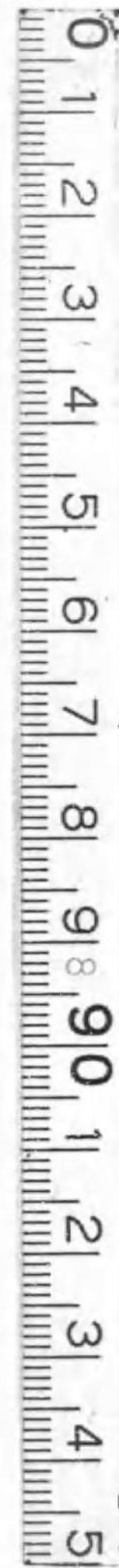


事業案内

特218
349

宇治川電気株式会社

342
247



始



第218
349



事業案内

宇治川電気株式会社

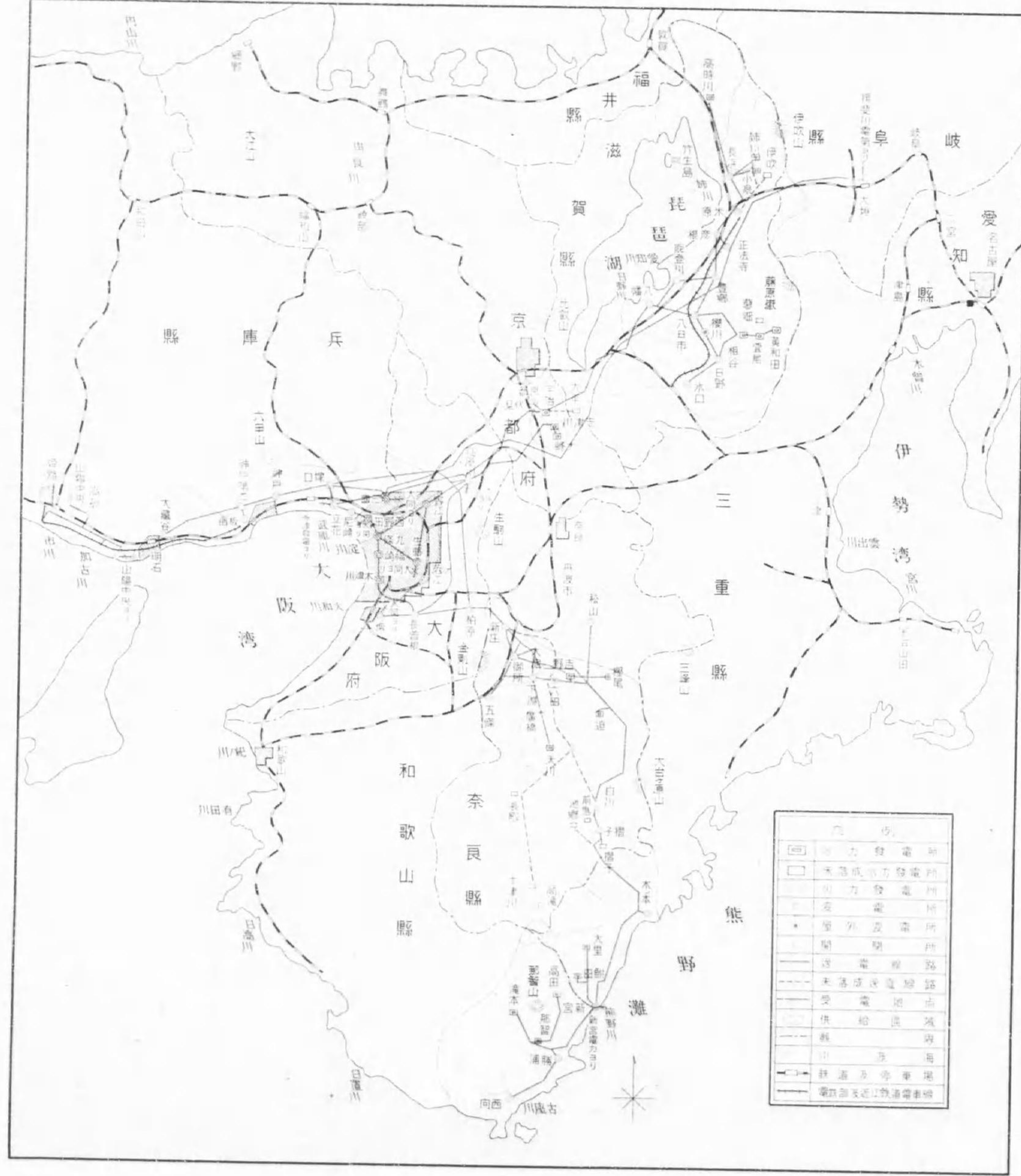


宇治川電気株式会社



凡例

水力發電所	水
水碓成水力發電所	水
火力發電所	火
變電所	電
變外電所	電
閉閉所	閉
送電線路	送
水碓成送電線路	水
受電地点	受
供給區域	供
縣界	縣
川及海	川
鉄道及停車場	鉄
鐵道及近江鉄道電線	鉄



一、資本金總額 金九千貳百五拾萬圓

一、供給電力(動力用)總馬力數 五拾參萬參千五百五拾壹馬力

一、供給電燈總箇數 四拾五萬五百參拾九箇

一、供給區域府縣市町村數 貳府六縣七市貳百五拾五箇町村

一、既設發電所數 貳拾貳箇所

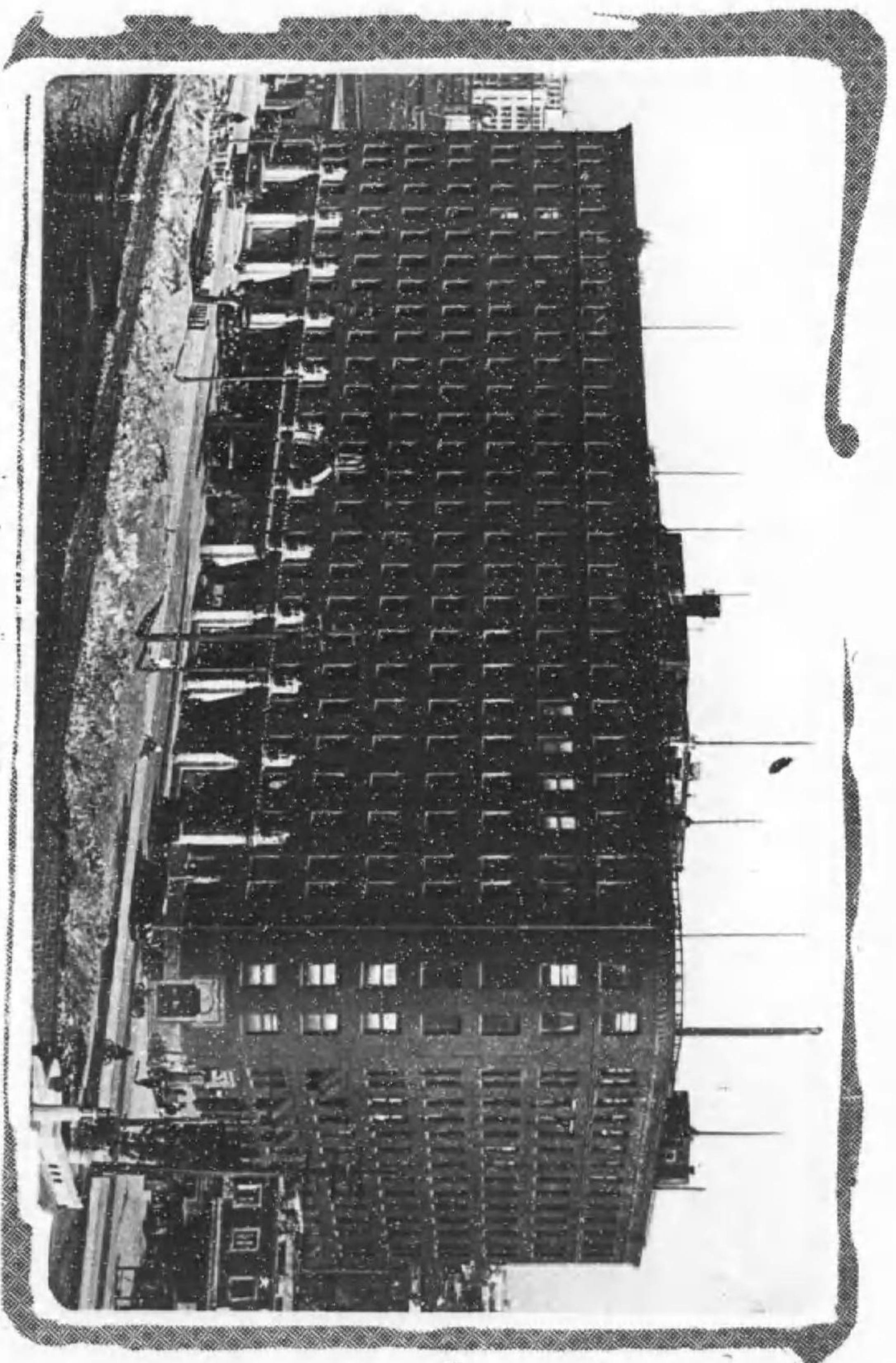
一、同 變電所數 六拾六箇所

一、同 開閉所數 拾壹箇所

一、建設中發電所數 參箇所

事業案内目次

一、總	說	三頁
(一)	琵琶湖の天恵(理想的貯水池)	三頁
(二)	本會社の特長	四頁
(三)	本會社の創立及事業	五頁
二、發電設備	附他會社よりの購入電力	一〇頁
三、送、配電	並 變電設備	三三頁
四、營	業 狀 態	四二頁
五、電鐵事業	ノ 概況	四五頁
六、附	錄	五三頁
(イ)	近江鐵道株式會社ノ概況	五三頁
(ロ)	神明自動車株式會社ノ概況	五三頁
(ハ)	神姫自動車株式會社ノ概況	五四頁



社 水



ニイラ川治宇(段下) 湖 琵琶(段上)

事業案内

宇治川電気株式会社

一、總説

(一) 琵琶湖の天恵(理想的貯水池)

本會社創立當初の目的は琵琶湖より流出する水を利用して電氣を發生し、近畿地方に供給するのであります。

抑も琵琶湖は日本第一の大湖であることは何人も知悉する所でありまして、古來灌溉、漁業、舟運の便に供せられて、今日に至つたのであります。更に之を水力電氣に利用するに至つて、國家産業に寄與することの甚大であることは言を俟たざる次第であります。

此の琵琶湖は風光明媚、四季を通じ、文人墨客の詩囊を肥し、殊に近江八景に至つては、古來人口に膾炙する所であります。其位置は近江の國の中央にあつて、廣さ東西五里二十七町、南北十六里十町、水面面積四十六方里餘、殆んど近江一國の諸流を集め、其の受水區域二百八方里餘の廣さに亘り、總水量一兆立方尺、全湖面一寸の水量七億八千萬立方尺と稱せらるゝのであります。而して早魃打続きたる場合でも、受水區域の廣大なるため、水位は容易に低下せず、殊に明治三十七年内務省に於て、瀬田川筋南郷の地先に洗堰を設けられてより、琵琶湖一

帯は宛然たる一箇の貯水池となり、水力発電の源泉として、本邦稀に見る好地點となつたのであります。

(二) 本會社の特長

本會社の發生する電氣は主として水力電氣によるものでありますが、特に主要なるは宇治川筋及大和方面にある各發電所であります。

宇治川筋に建設しました各發電所は前述の通り、本邦最大の琵琶湖を自然の貯水池とするので、四季湯水の憂なく流量均一でありまして、發電力減少の虞がないことは本會社の最も誇りとする所であります。

又、大和地方は千古斧鉞を加へない森林地帯でありまして、殊に雨量の多い土地であるため、水量は豊富で、且地勢上高落差を得られ、水電事業上無二の天恵を有するものと云はねばならぬのであります。而して本會社が電力販賣權を有する區域は電氣需用の最も旺盛なる、本邦商工業の中心と稱せらるゝ、京阪神地方でありまして、前記の各發電所との距離が極めて近いのであります。従つて送電線路に要する建設費を節減し、且線路の故障も自ら除くことが出來て、需用家には最も喜ばるゝのであります。尙近年神戸姫路間の電車を經營する様になりまして電力の消化をなすと同時に低廉なる運賃を以て乗客の利便を圖る事に努めてゐます。此等は本會社事業の特長と看るべきものであります。

(三) 本會社の創立及事業

本會社は明治三十九年十月二十五日創立したのであります。其の目的とする事業は

- 一、電力供給並電燈事業
- 二、電氣工業
- 三、電氣に關する機械、器具の製造賣買
- 四、地方鐵道法、軌道法に依る一般運輸事業並に自動車に依る一般運輸事業及之等に附帶する左の事業

(イ) 土地家屋の賣買貸貸並に日用品の販賣

(ロ) 娛樂機關の經營

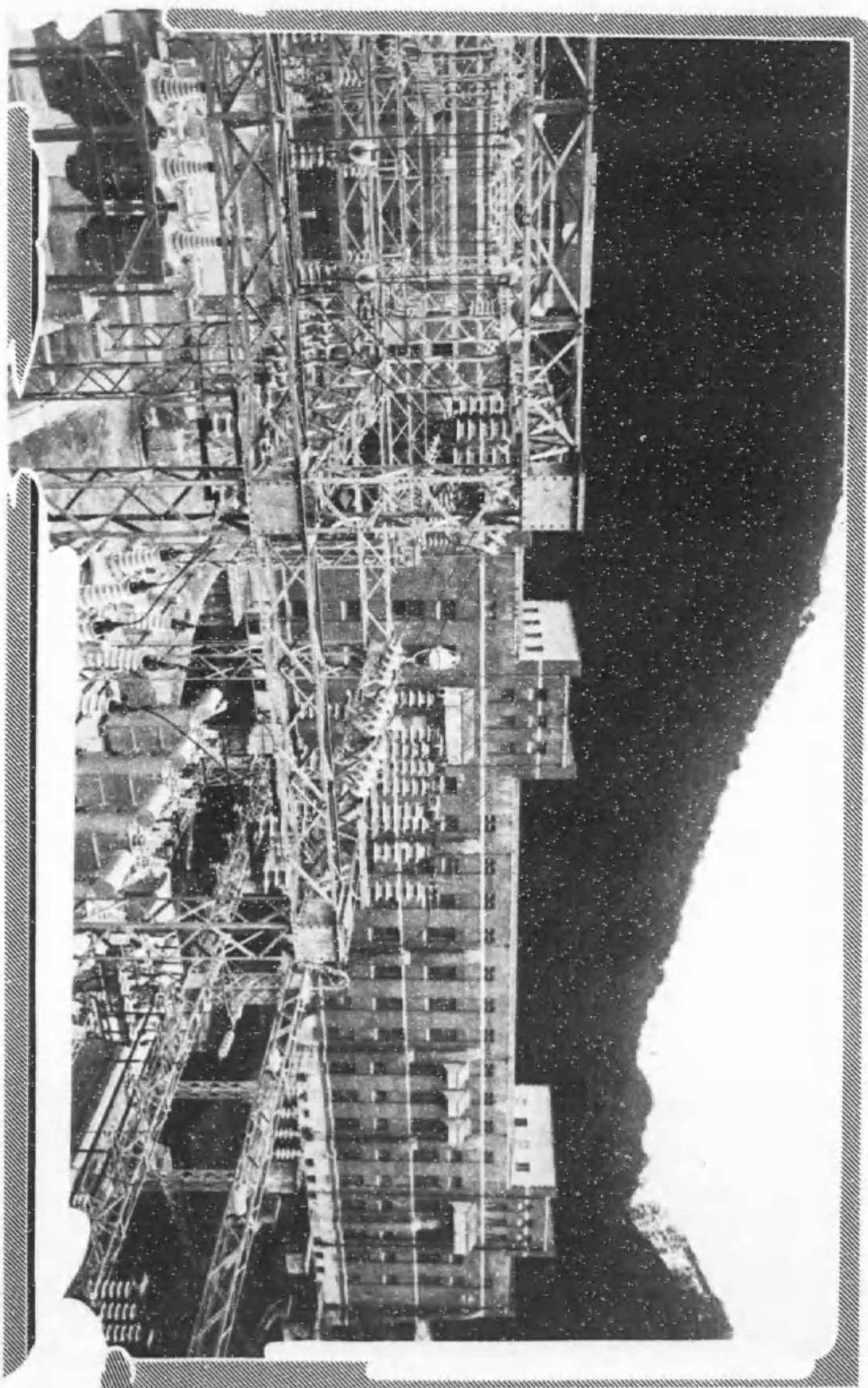
五、營業に關係ある事業に對する出資

本會社創立當時の計畫は琵琶湖より流出する一部分の水（毎秒二千立方尺）を滋賀縣滋賀郡石山村南郷の地先より引用して、京都府宇治町に發電所を設け、之に依り二萬九千「キロワツト」の電力を發生して、先づ大阪、京都に供給するものであります。

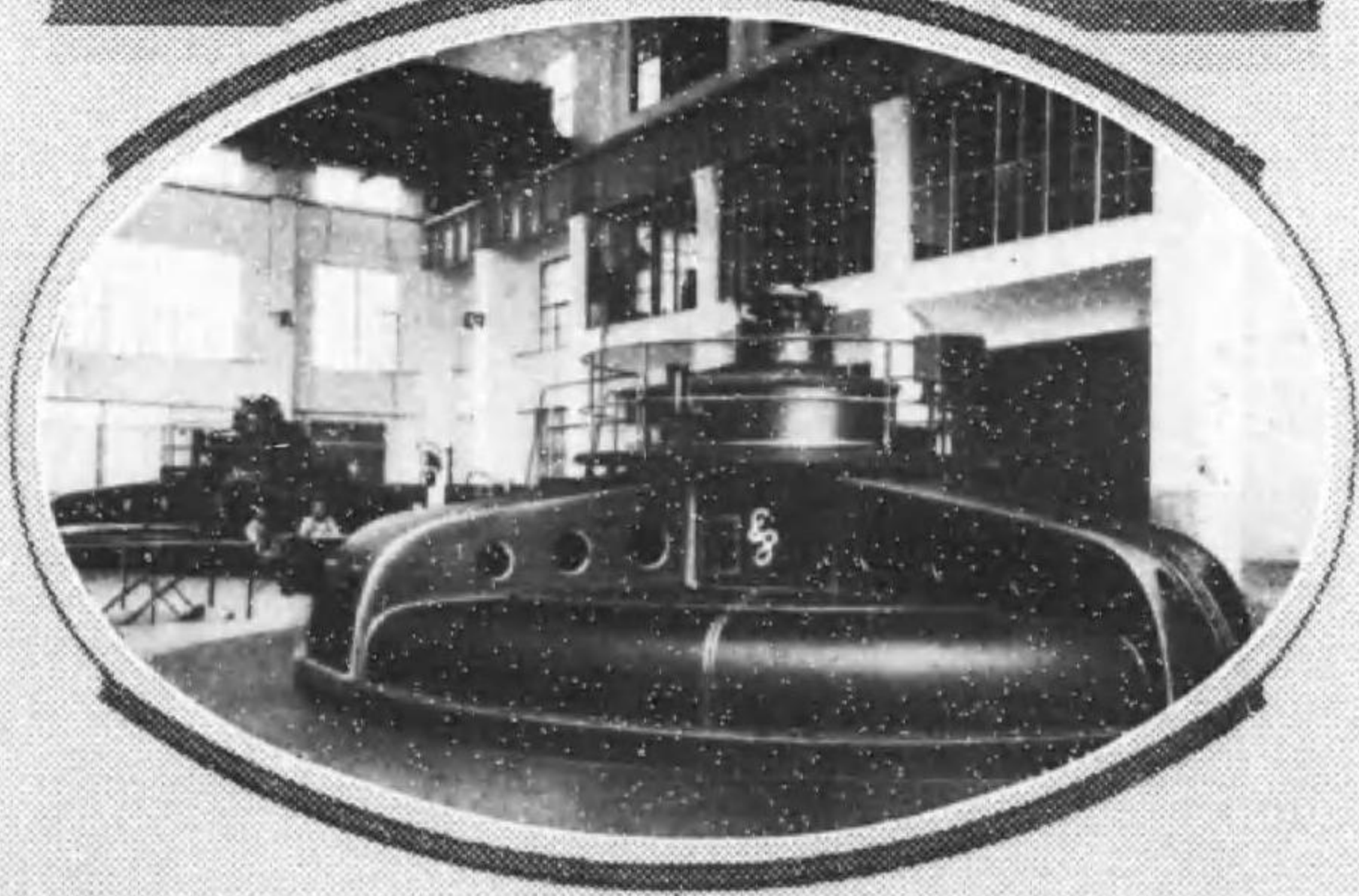
此の工事は明治四十年十二月建設の認可を受け、翌年早々起工し、大正二年七月完成し、同年八月一日營業を開始したのであります。之を本會社の第一期水電工事と云ふのであります。

當時電燈電鐵用の外、一般工業用に使用せらるゝ電気は極めて少かつたのでありますが、本會社は極力電氣動力の普及を圖ると共に、諸般工業の勃興と工業家の自覺により、其の需用は駁駁として増加致しまして、暮年ならずして前記發生電力は不足を告ぐるに至つたのであります。因つて之が對策として先づ宇治發電所の出力増加を企て、其の使用水量増加の許可を受けます。發電機を漸次大型のものに取替へ、遂に大正十一年八月其の發電力を三萬二千「キロワット」に増加したのであります。時恰も歐洲戰亂に際會致しまして、諸般の工業が一時に勃興し、電動力の需要が激増したので、取敢へず火力の發電所を大阪市築港尻無川の右岸に建設することゝなし大正七年二月工事に着手し、大正九年四月之を竣工したのであります。之を福崎發電所と稱しまして、其の發電力は最初三萬「キロワット」でありましたが、更に一萬「キロワット」を増設して大正十二年四月完成したのであります。

以上の外、豫て宇治發電所の上流十二町の地點で計畫中でありました志津川發電所は、多年の間當局より建設の認可を得なかつたのでありましたが、漸く大正九年九月之を受くるに至つたので、直に工事に着手し、大正十三年三月完成して、茲に二萬八千「キロワット」の發電力を増加したのであります。之を本會社の第二期水電工事と稱するのであります。尙、大正十二年七月工事施行の認可を受けました大峰發電所と云ふのは、志津川發電所の水路取入口に設けたる堰堤を利用することの出来る經濟上極めて有利なる工事でありまして、最大時、一萬六千「キロワット」の電力を發生するものでありまして、大正十二年十月工事に着手し大正十五年



宇治發電所



部内所電發峯大(段下) 堤堰川津志(段上)

八月竣成したのであります。之を本會社の第四期水電工事と稱するのであります。其他宇治川筋に於て、追て第三期水電工事に着手する豫定であります。

當社の電力需用は日を逐うて激増してゐますので、此等の需用に應ずる爲め、又一方水力發電の渴水時に於ける火力補給を理想的に行ふ爲め大阪市住吉區木津川尻左岸に六萬「キロワット」の火力發電所を建設することとし、大正十五年七月工事に着手し、昭和二年十月竣工したのであります。之を木津川發電所と云ふのであります。

本會社創立當時の資本金は壹千貳百五拾萬圓でありましたが、事業の發展に伴ひ、大正五年五月之を倍額として貳千五百萬圓に増加したのであります。而して大正十年九月には、近江水力電氣株式會社（琵琶湖東北沿岸一帯に電燈、電力を供給す）を合併して資本金を參千壹百四拾萬圓とし、次に同年十月には大和電氣株式會社（吉野郡を中心として奈良縣下に於ける最も廣汎なる區域に電燈、電力を供給す）を合併して資本金を參千七百六十五萬圓とし、次に大正十一年五月には熊野電氣株式會社（和歌山縣下、那智、新宮を中心として三重縣下、木本に至る一帯の區域に電燈、電力を供給す）を合併して資本金を參千八百七拾萬圓とし、次に同年十月には神戸市内一圓へ電力供給を目的とする、大正水力電氣株式會社を合併して資本金を四千壹百參拾六萬六千六百五拾圓に増額し、更に同月總資本金を八千五百萬圓に増額し、尙昭和二年一月には兵庫明石間を走行する兵庫電氣軌道株式會社を合併して資本金を九千萬圓とし、翌で同年四月には明石姫路間を走行する神戸姫路電氣鐵道株式會社を合併して資本金を九千貳百

五拾萬圓に増額したのであります。

本會社は前記の自家發電の外、尙他の電力會社より、夫々電力を購入して需要の激増に應じつつあるのであります。

以上述べました様に、本會社は琵琶湖の天恵を承け、大和方面の發電力を擁し且他の電力會社と受電契約を結び、更に地の利を得たる電鐵事業を營んで、今後益々發展せんとする關西地方に於ける電氣の需用に應ずると同時に、神姫方面の旅客貨物の輸送に當らんとする覺悟を以て努力して居る次第であります。

二、發電設備 附、他會社よりの購入電力

本會社の水力並火力發電設備の梗概を述べますと次の通りであります。

(一) 全發電力

發電設備の内には既設のもの、目下工事中のもの、及び未だ工事に着手せざるものがありますが、之を合計して本會社の全發電力を見ますと次の通りとなりますのであります。

火 力	既 設「キロワット」		工事中「キロワット」		未着手「キロワット」		合 計「キロワット」
	出力	備考	出力	備考	出力	備考	
水 力	八九、八四六		一七、四一七		一八、九五四		一二六、二一七
火 力	一〇〇、〇二〇						一〇〇、〇二〇
合 計	一八九、八六六		一七、四一七		一八、九五四		二二六、二三七

水力の部 内 譯

發電所名	河川名	出力「キロワット」	備考
宇治發電所	宇治川筋	三二、〇〇〇	既設
志津川發電所	同	二八、〇〇〇	同
大峰發電所	同	一六、〇〇〇	同
白川發電所	奈良縣白川又川	二、四一四	同
櫻尾發電所	同	二、三六五	同
吉野發電所	同	一、六六一	同
黄和田發電所	滋賀縣同	一、四〇二	同
高時川發電所	同	一、〇三九	同
小泉發電所	同	九六六	同
相谷發電所	同	七四七	同
天谷發電所	奈良縣同	六四〇	同
荒尾發電所	滋賀縣同	六四〇	同
姉川發電所	同	六一五	同
追分發電所	奈良縣同	五〇〇	同
高田發電所	同	三二二	同

高瀬	藤吹	伊吹	大津	十津	池郷	摺子	長殿	鮎田	大里	那智	瀧本
發電所	發電所	發電所	發電所	發電所	發電所	發電所	發電所	發電所	發電所	發電所	發電所
奈良縣野用	滋賀縣神崎	滋賀縣伊吹	滋賀縣宇治川筋	同池郷	同池郷	同北山	同天ノ	同湯谷	同三重野	同那智	同和歌山縣本
野用	崎	川	筋	川	川	川	川	川	川	川	川
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
四四二	一、七五〇	三、〇二七	五、四二〇	八、三一五	七、五四〇	七、五四〇	八、九二一	五〇	一〇〇	一二〇	二六五
同	同	同	同	未着手	同	同	工事中	同	同	同	同
一二六、二一七											

以上の外、目下水利權出願中に屬するものは二四、一七〇「キロワット」に達するのであります。

火力の部

發電所名	所在地	出力「キロワット」	備考
木津川發電所	大阪市住吉區柴谷町	六〇、〇〇〇	既設

(二) 既設水力發電所

既設水力發電所の内、主なるものは次の通りであります。

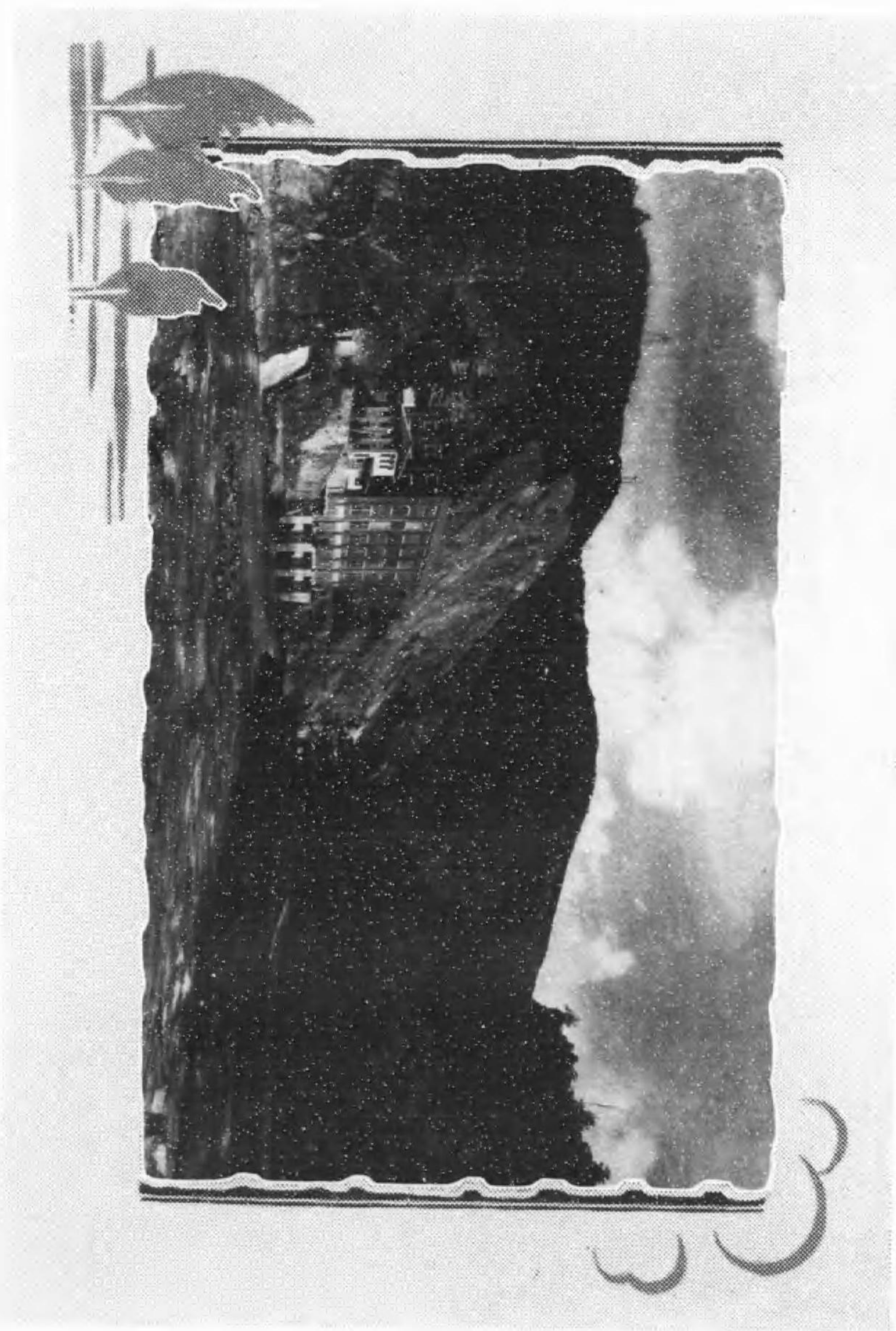
甲、宇治川筋

(イ) 宇治發電所 (第一期水電工事)

所在地	京都府久世郡宇治町大字宇治郷
水路延長	六、一三一間
使用水量	二、二〇〇箇
有効落差	二〇四尺
出力	三二、〇〇〇「キロワット」
水車	八一〇〇馬力 六臺
發電機	七五〇〇「キロヴォルトアムペア」 六臺
竣工	大正二年七月

(ロ) 志津川發電所 (第二期水電工事)

所在地 京都府久世郡檜島村字檜尾山 (宇治發電所上流約十二町)



水路延長 一〇一四間
 堰堤 長サ二一六尺——高サ一〇一尺——厚サ上部二八尺
 湛水量 一二九〇〇〇〇〇〇立方尺
 有効落差 一五〇尺
 使用水量 二八〇〇筒
 出力 二八〇〇〇「キロワット」
 水車 一七〇〇〇馬力 三臺
 發電機 一四〇〇〇「キロヴォルトアンペア」 三臺
 竣工 大正十三年三月

(ハ)大峰發電所(第四期水電工事)

所在地 京都府綴喜郡田原村大字高尾(第二期水電工事堰堤直下)
 水路延長 九一間
 使用水量 三、五〇〇筒
 有効落差 七〇尺
 出力 一六〇〇〇「キロワット」
 水車 一二五〇〇馬力 二臺
 發電機 一〇〇〇〇「キロヴォルトアンペア」 二臺



所電發田和黃(設下) 所電發泉小(設上)

竣工 大正十五年八月

乙、近江方面

(イ) 萱尾發電所

所 在 地	滋賀縣神崎郡山上村大字萱尾
水路延長	一五九二間
使用水量	八〇箇
有効落差	一三七尺
出力	六四〇「キロワット」
水車	九五〇馬力 一臺
發電機	八〇〇「キロヴォルトアムペア」一臺
竣工	明治四十四年二月

(ロ) 姉川發電所

所 在 地	滋賀縣東淺井郡東草野村大字上板並
水路延長	二八七八間
使用水量	三五箇
有効落差	三二〇尺
出力	六一五「キロワット」

水車 一、一〇〇馬力 一臺
發電機 七二〇「キロヴォオルトアムベア」一臺
竣工 大正四年十二月

(ハ) 相谷發電所

所在地 滋賀縣神崎郡山上村大字相谷
水路延長 二、一〇二間
使用水量 一〇〇箇
有効落差 一一六尺
出力 七四七「キロワット」
水車 一、二五〇馬力 一臺
發電機 七五〇「キロヴォオルトアムベア」一臺
竣工 大正八年七月

(ニ) 黄和田發電所

所在地 滋賀縣愛知郡東小椋村大字黄和田
水路延長 二、一五五間
使用水量 六七箇
有効落差 三二一尺
出力 一、四〇二「キロワット」
水車 一、二〇〇馬力 二臺
發電機 七五〇「キロヴォオルトアムベア」一臺
七二〇「キロヴォオルトアムベア」一臺
竣工 大正十一年七月

(ホ) 高時川發電所

所在地 滋賀縣伊香郡高時村大字川合
水路延長 一、三九六間
使用水量 二〇〇箇
有効落差 八一尺
出力 一、〇三九「キロワット」
水車 八二五馬力 二臺
發電機 一、三五〇「キロヴォオルトアムベア」一臺
竣工 大正十四年十月

(ヘ) 小泉發電所

所在地 滋賀縣坂田郡伊吹村大字伊吹字小岸
水路延長 七五四間

丙、大和方面

(イ) 迫發電所

使用水量	一六〇筒
有効落差	九二尺
出力	九六六「キロワット」
水車	七八〇馬力 二臺
發電機	六五〇「キロヴォオルトアムペア」二臺
竣工	昭和六年六月

所在地 奈良縣吉野郡川上村大字迫

水路延長 一〇五八間

使用水量 一三筒

有効落差 七二七尺

出力 五〇〇「キロワット」

水車 六〇〇馬力 二臺

發電機 四〇〇「キロヴォオルトアムペア」二臺

(ロ) 天川發電所

竣工 大正元年七月

(ハ) 白川發電所

所在地	奈良縣吉野郡天川村大字中越
水路延長	一四一間
使用水量	一八筒
有効落差	五四八尺
出力	六四〇「キロワット」
水車	一〇〇〇馬力 一臺
發電機	八〇〇「キロヴォオルトアムペア」一臺
竣工	大正四年七月

所在地 奈良縣吉野郡上北山村大字白川

水路延長 二〇二八間

使用水量 六〇筒

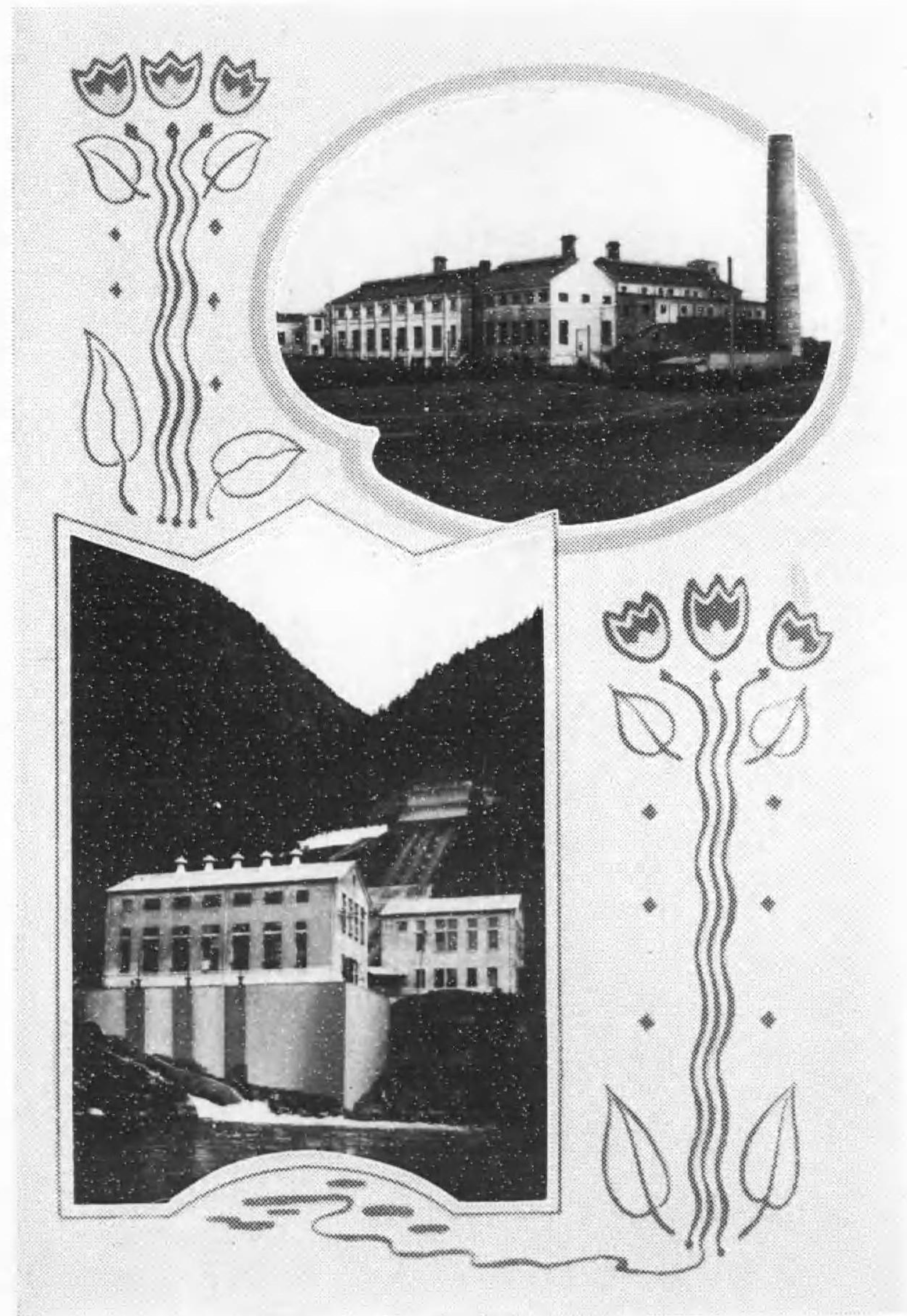
有効落差 六〇二尺

出力 二四一四「キロワット」

水車 二二〇〇馬力 二臺

發電機 一九〇〇「キロヴォオルトアムペア」二臺

竣工 大正十年六月



所電發尾櫻(段下) 所電發崎福(段上)

(三) 吉野發電所

所在	奈良縣吉野郡中莊村大字南檜井
水路延長	二五二三間
使用水量	三五〇箇
有効落差	七八尺
出力	一六六一「キロワット」
水車	一〇〇馬力 三臺
發電機	一〇〇〇「キロヴォルトアムペア」 三臺
竣工	大正十一年九月

(ホ) 檜尾發電所

所在地	奈良縣吉野郡中莊村大字檜尾
水路延長	一五八〇間
使用水量	二二〇箇
有効落差	一七六尺
出力	二二六五「キロワット」
水車	一八〇〇馬力 三臺
發電機	一二五〇「キロヴォルトアムペア」 三臺
竣工	大正十二年四月

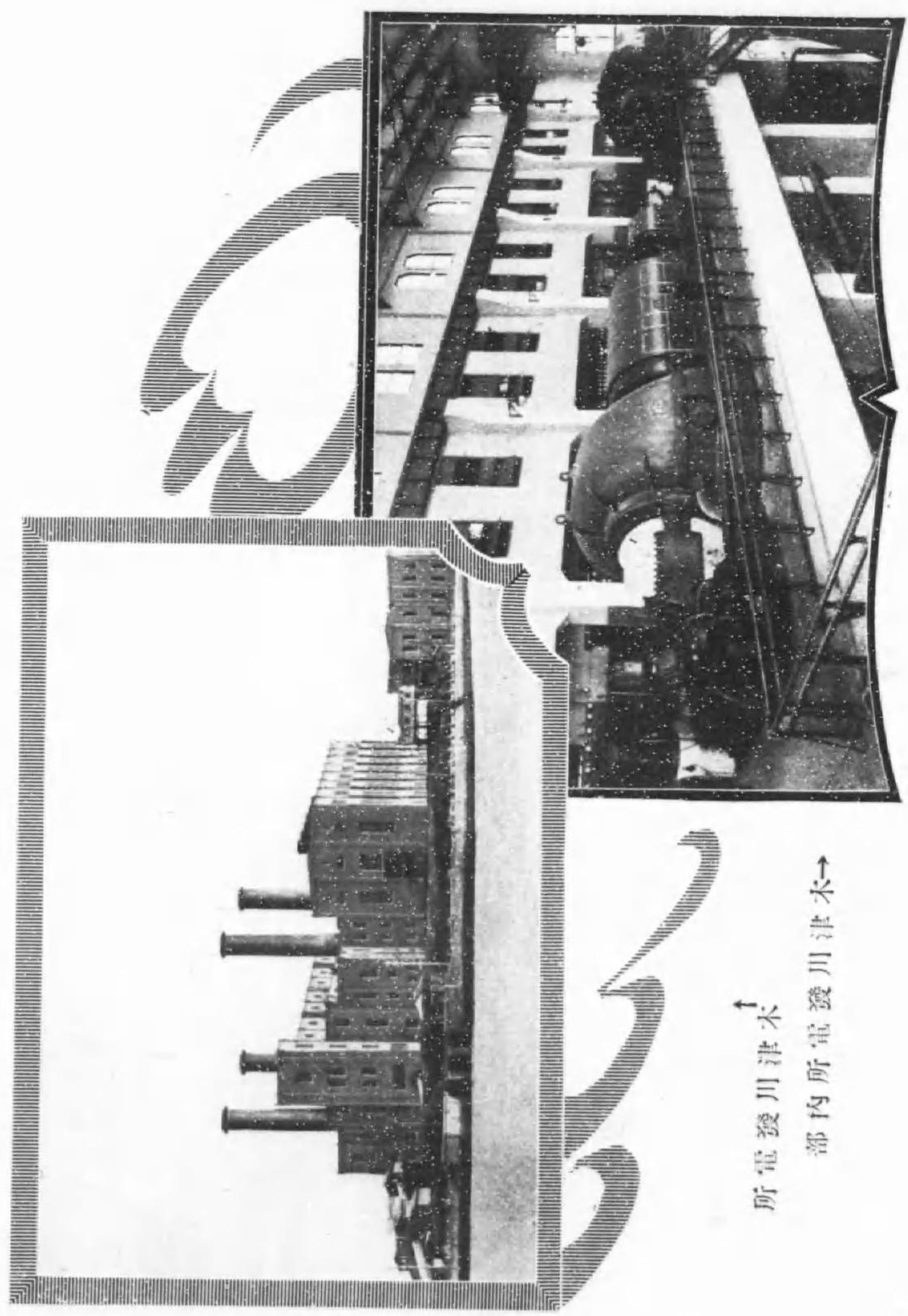
丁、熊野方面

(イ) 那智發電所

所在地 和歌山縣東牟婁郡那智村大字市野々
 水路延長 七二一間
 使用水量 一〇・五箇
 有効落差 二八七尺
 出力 一二〇「キロワット」
 水車 二五〇馬力 一臺
 發電機 一五〇「キロヴォルトアムペア」 一臺
 竣工 大正二年二月

(ロ) 高田發電所

所在地 和歌山縣東牟婁郡高田村大字高田
 水路延長 七五三間
 使用水量 一〇箇
 有効落差 五五五尺
 出力 三二「キロワット」
 水車 三〇〇馬力 一臺



↑ 津川發電所
 ↓ 津川發電所内

發電機 三四〇「キロヴォルトアムペア」一臺
 竣工 大正八年九月

(ハ) 瀧本發電所

所在地 和歌山縣東牟婁郡小口村大字瀧本
 水路延長 一四五五間
 使用水量 六箇
 有効落差 六八七尺
 出力 二六五「キロワット」
 水車 三七五馬力 一臺
 發電機 三〇〇「キロヴォルトアムペア」一臺
 竣工 大正十年十二月

此の他に大里及鮎川兩發電所(出力合計一五〇「キロワット」)があります。
 (三) 既設火力發電所

(イ) 福崎發電所

所在地 大阪市港區北福崎東ノ町尻無川右岸
 出力 四〇〇〇「キロワット」
 (加熱面積七〇九七平方呎 一三臺
 同 八六一一平方呎 一三臺)

汽 壓 二五〇封度
 過熱度 華氏二二五度
 蒸汽旋車 一六、七五〇馬力 四臺
 觸面凝汽器 一六、〇〇〇平方呎 四臺
 發電機 一二、五〇〇「キロヴォルトアムペア」四臺
 竣工 大正九年五月

(ロ) 木津川發電所

所在地 大阪市住吉區柴谷町木津川左岸
 出力 六〇〇〇「キロワット」
 汽 加熱面積 一五、三一九平方呎 八臺
 汽 壓 三七五封度
 過熱度 華氏二五〇度
 蒸汽旋車 四四、〇〇〇馬力 二臺
 觸面凝汽器 三八、七〇〇平方呎 二臺
 發電機 三七、五〇〇「キロヴォルトアムペア」二臺
 竣工 昭和二年十月

此の他に竹生島發電所(出力二〇「キロワット」)があります。

(四) 擴張工事概要

現在工事中若くは工事施行申請中の水力発電所の主なるものは次の通りであります。

一、宇治川筋

第三期水力電気工事 (大平発電所) (申請中)

設置場所 滋賀縣滋賀郡石山村大字外畑

水路延長 二、三三三間

使用水量 一、八〇〇箇

有効落差 四八尺

出力 五、四二〇「キロワット」

水車 四、〇〇〇馬力 三臺

発電機 三、五〇〇「キロヴォルトアムペア」 三臺

二、近江方面

(イ) 伊吹発電所工事 (申請中)

設置場所 滋賀縣坂田郡伊吹村大字伊吹

水路延長 五、二五八間

使用水量 九〇箇

有効落差 五二七尺

出力 三、〇二七「キロワット」

(ロ) 蓼畑発電所工事 (申請中)

設置場所 滋賀縣神崎郡山上村大字蓼畑

水路延長 二、四七九間

使用水量 六〇箇

有効落差 五四二尺

出力 一、七五〇「キロワット」

此の他に申請中のものは二箇所 (出力合計六一一「キロワット」) あります。

三、大和方面

(イ) 摺子発電所工事 (工事中)

設置場所 奈良縣吉野郡下北山村大字下桑原

水路延長 一、六〇五間

使用水量 六九〇箇

有効落差 一八五尺

出力 七、七四〇「キロワット」

(ロ) 長殿発電所工事 (工事中)

設置場所 奈良縣吉野郡十津川村大字長殿

水路延長 五、二八七間
 使用水量 二三五箇
 有効落差 六二三尺
 出力 八、九二一「キロワット」

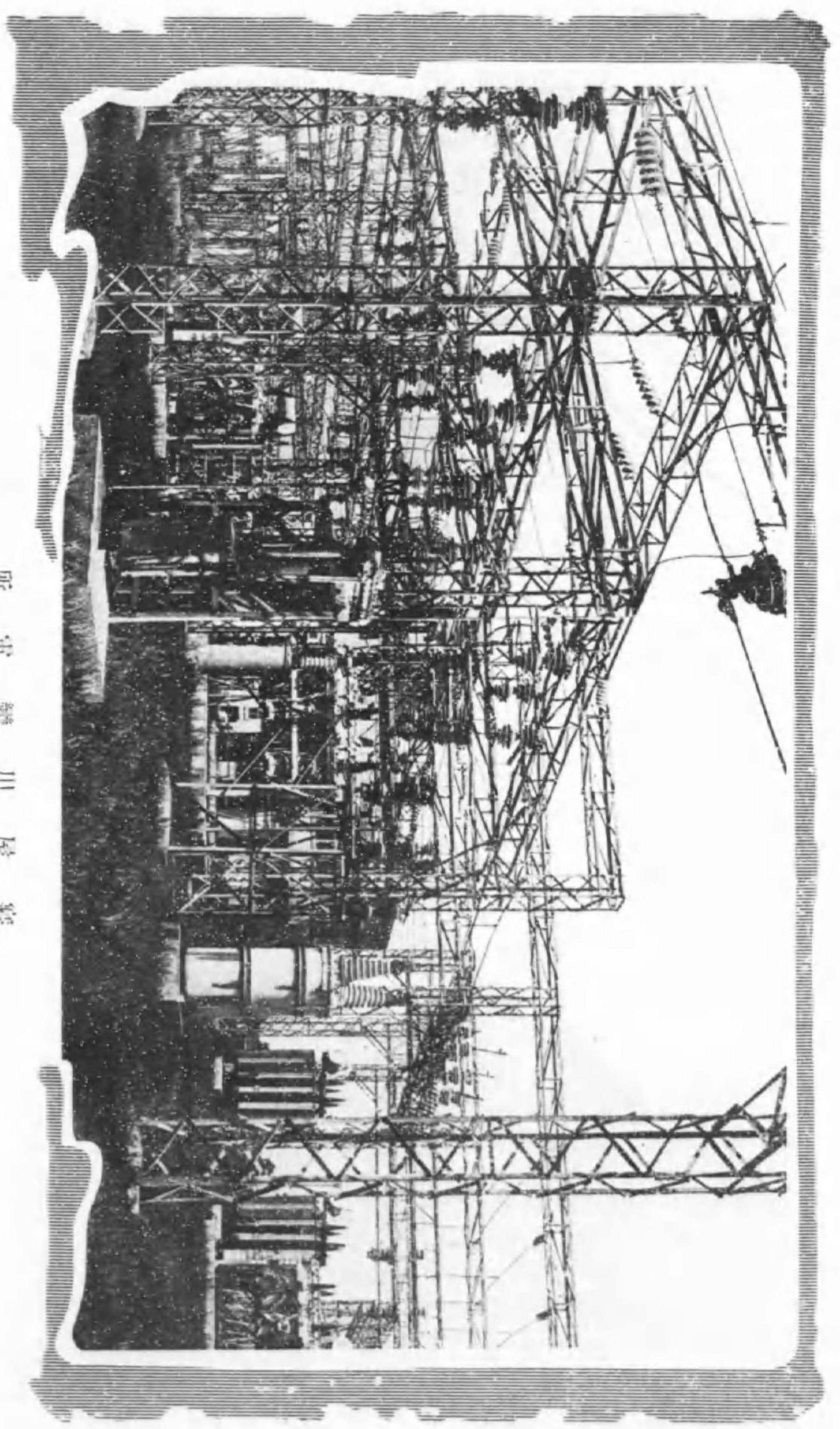
此の他に申請中のもの四箇所（出力合計二〇、六八七「キロワット」）あります。
 四、熊野方面

目下申請中のもの一箇所（出力六九六「キロワット」）あります。

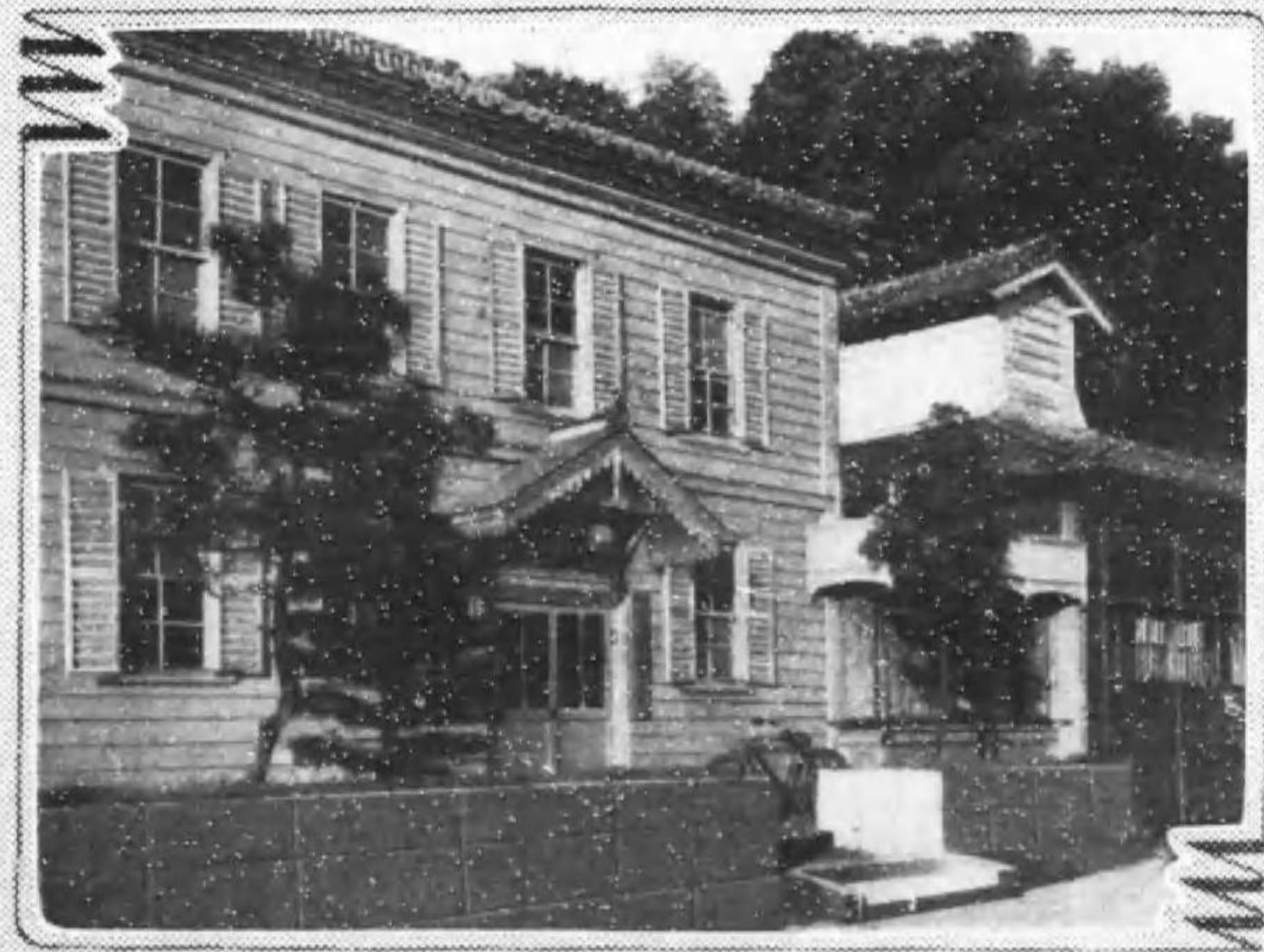
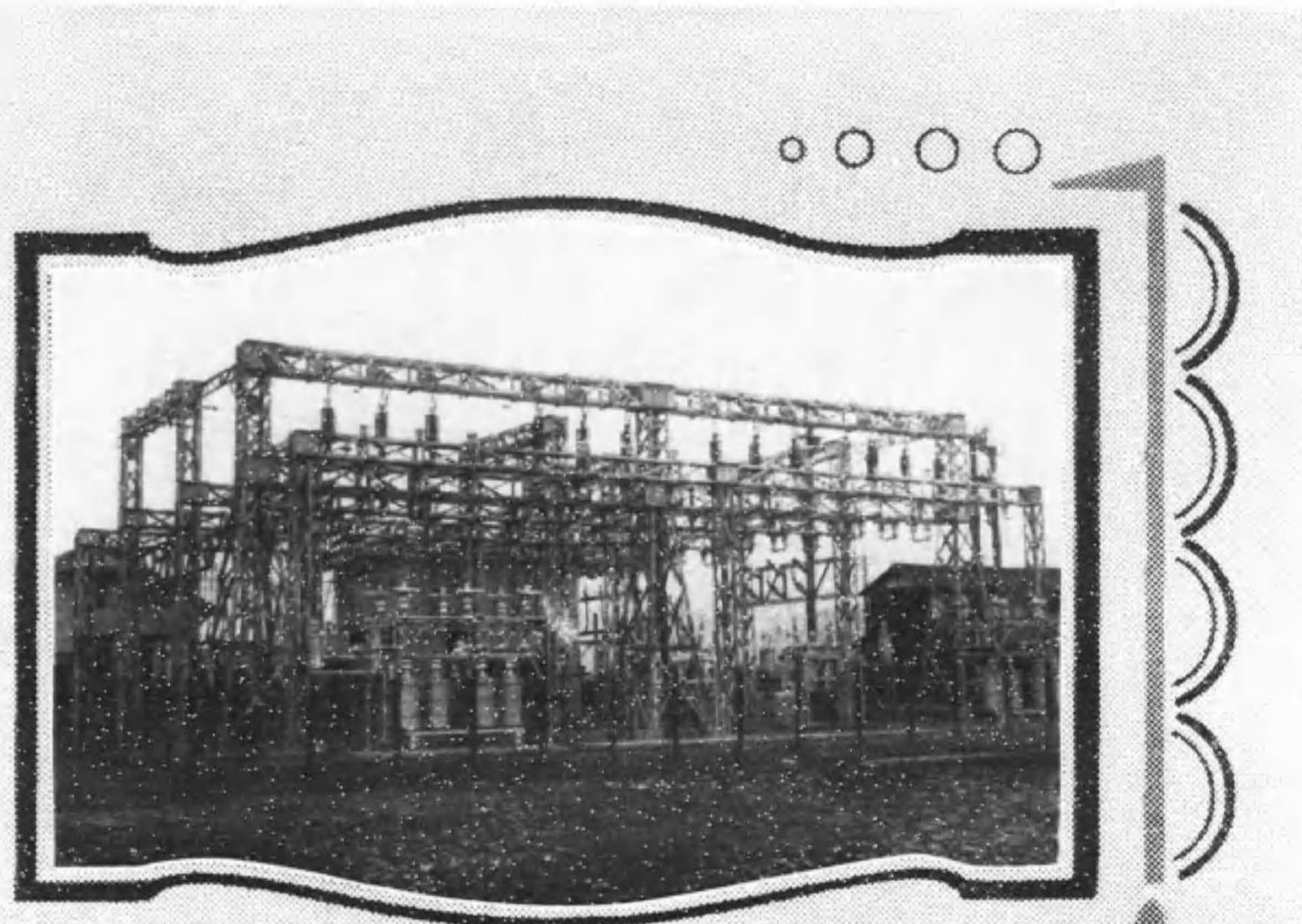
以上本會社の總發電力は既設、未設を合す時は二十二萬六千二百「キロワット」に達するのであります。此の内火力十萬「キロワット」を除けば總て水力發電によるものであります。

(五) 他會社よりの購入電力
 本會社の發電力は前述の如く二十二萬六千「キロワット」餘に上るのであります。但し現在に於て關西地方の電力、電燈、電熱等無限の需要に應ずるためには之を以て足れりとする事は出来ないのであります。従つて各方面より電力を得ることに努めて居るのであります。目下本會社が他會社より購入せる電力の主なるものは左の通りであります。

供給社名	購入電力「キロワット」	摘要
排斐川電氣株式會社	八、〇〇〇	他ニ不定時電力三、〇〇〇「キロワット」



所電變川屋經



所張出野熊(段下) 所電變都京(段上)

大同電力株式会社
今津發電株式會社

一一八、〇〇〇
一〇、〇〇〇

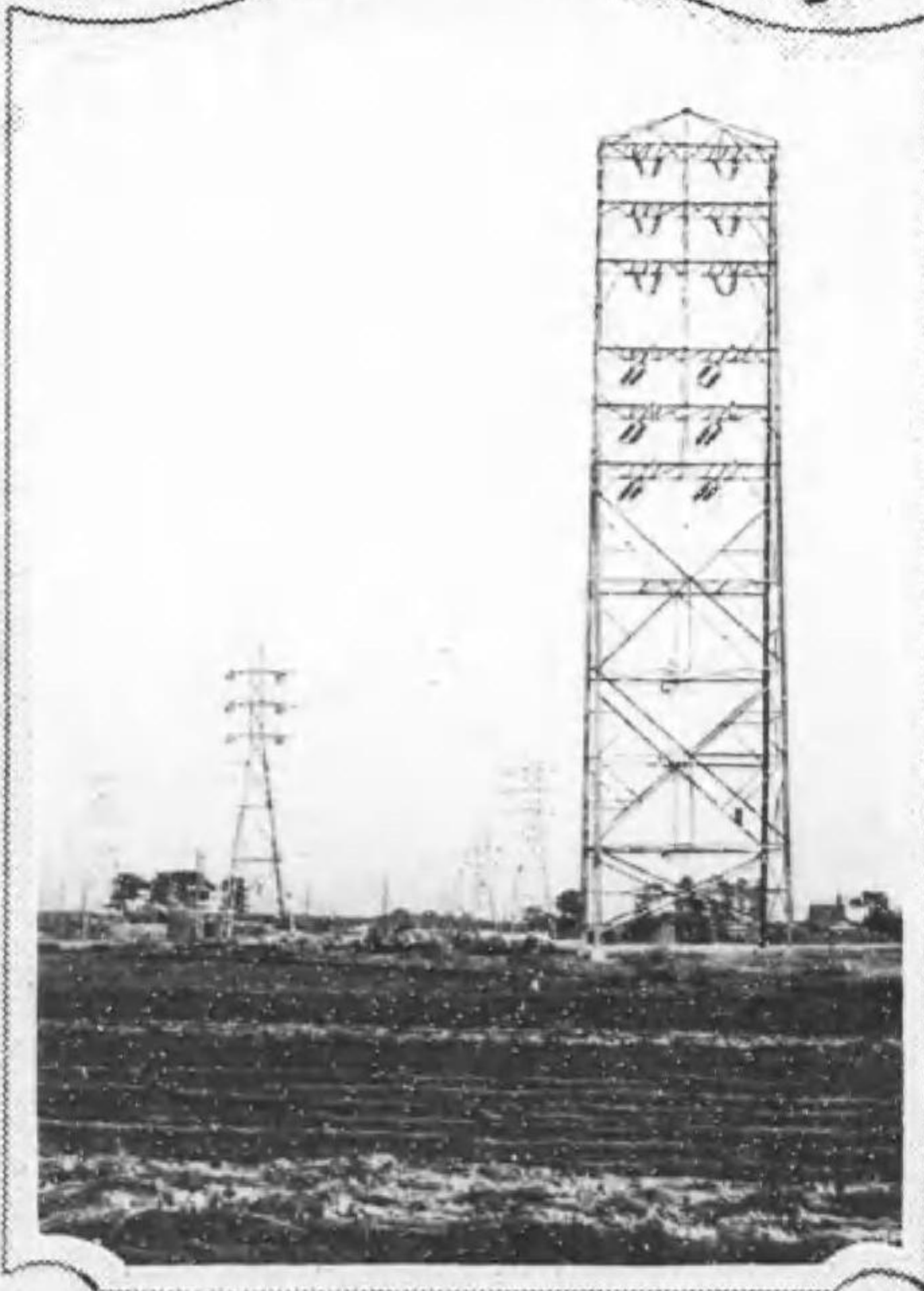
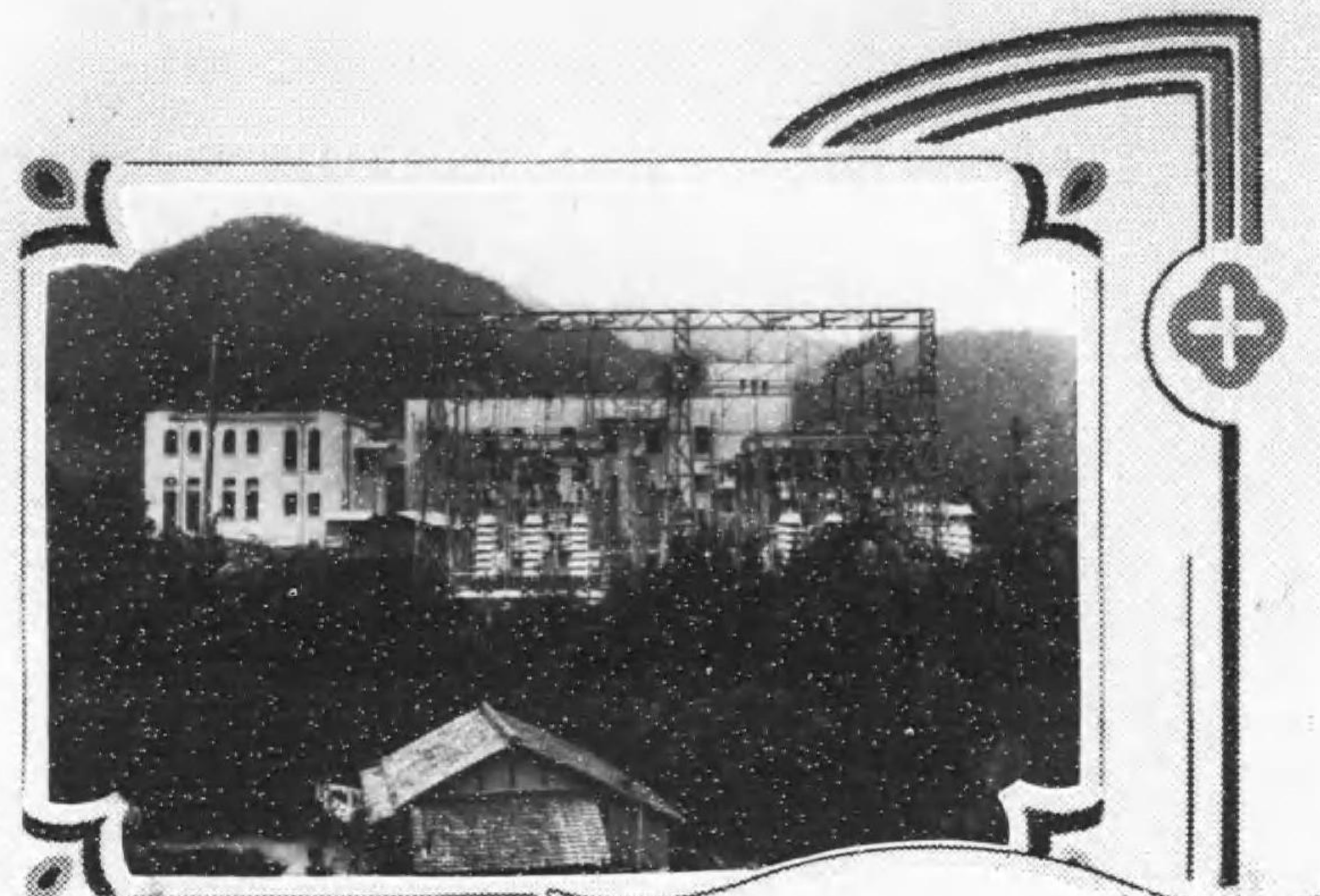
三、送、配電並變電設備

本會社の送電、配電並に變電設備の大略を本支店別に述べれば次の通りであります。
(イ) 本 店

宇治發電所に於て發生する電力は五萬五千「ヴォルト」に昇壓して、伏見、寢屋川兩變電所並に近江支店八幡變電所に送電し、伏見變電所に於ては一部を五萬五千「ヴォルト」の儘京都電燈株式會社に供給し、其他は二萬二千「ヴォルト」に降壓し、京都變電所を経て京都市電氣局及び京都電燈株式會社に供給して居るのであります。

大峰發電所にて發生する電力は之れを一萬一千「ヴォルト」の送電線により志津川發電所に送電し、同所にて發生する電力と合して五萬五千「ヴォルト」に昇壓し、之亦寢屋川變電所に送電して居るのであります。

寢屋川變電所に於ては更に木津川發電所及び當社大和支店發電所よりの七萬七千「ヴォルト」送電線により受電し、前記五萬五千「ヴォルト」水力系統と變壓器を以て連絡し、尙又大同電力株式會社大阪變電所よりも七萬七千「ヴォルト」の電壓にて受電し、之等の電力の一部は七



線電送(段ト)所電變二第戸神(段I)

萬七千「ヴォルト」神戸送電線により神戸第一、第二の兩變電所に送電し尙途中分岐して尼ヶ崎市郊外の立花變電所に連絡し、他は五萬五千「ヴォルト」送電線により三國、野江、若江、長曾根の各變電所に送電して居るのであります。

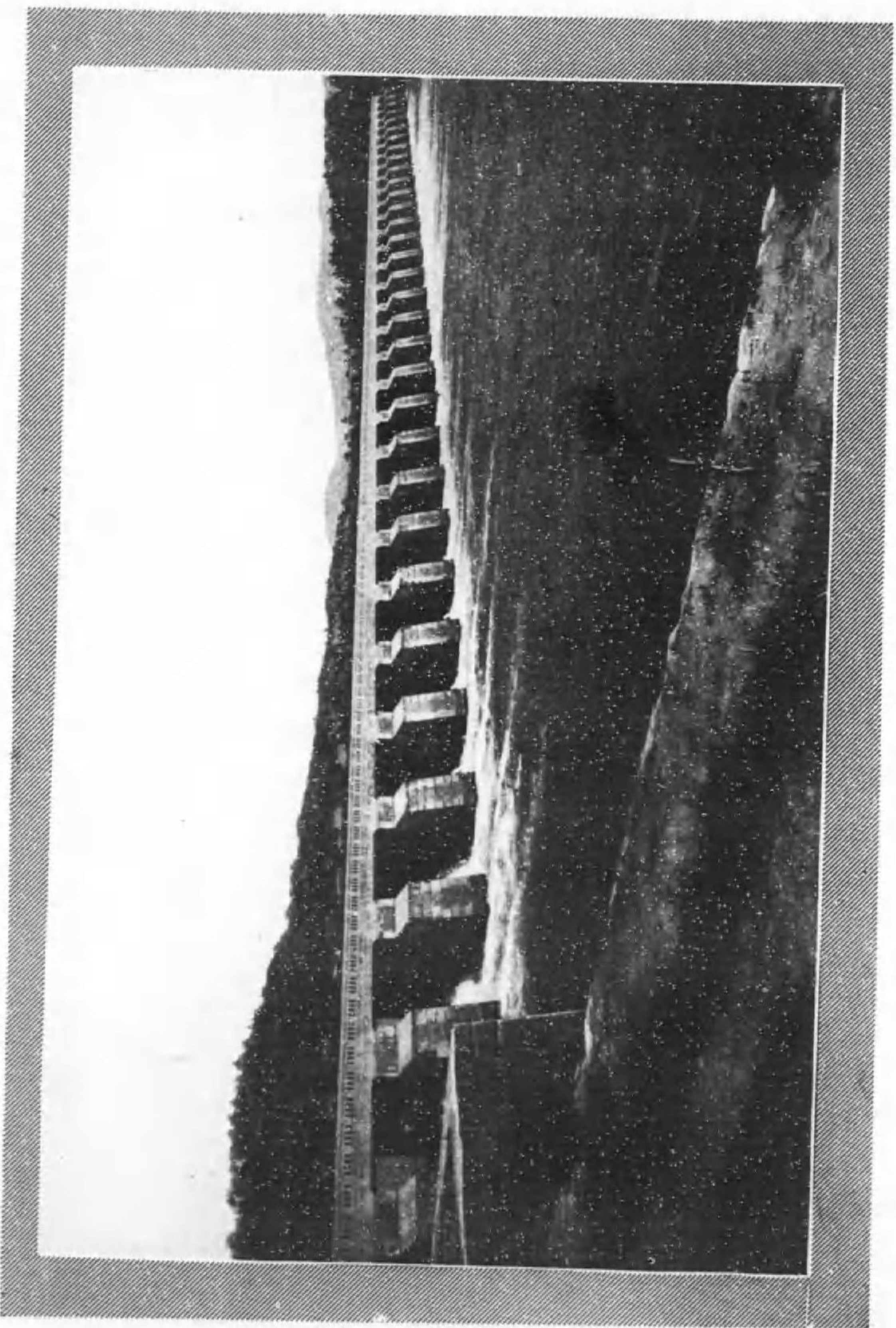
如斯寢屋川變電所は大和支店水力、本店水力及火力系統竝に大同系統の受送電をなし、之等電力の分配、補給の機能を完全に掌る主要なる中央變電所にして之れが爲め供給上極めて完全を期し得るのであります。

次に火力發電に依るものは、福崎竝に木津川發電所にして一部は一萬一千「ヴォルト」地中送電線により大阪市内の送電に充て、他は七萬七千「ヴォルト」送電線により長曾根變電所を経由し前記寢屋川變電所に連絡するのであります。

他會社よりの購入電力は大同電力株式會社、揖斐川電氣株式會社、今津發電株式會社竝に日本電力株式會社よりの受電にして、大同電力株式會社よりは七萬七千「ヴォルト」の電壓にて前記寢屋川變電所の外三國變電所に於て、二萬二千「ヴォルト」の電壓にて堺、生野兩變電所に於て、又一萬一千「ヴォルト」の電壓にて西野田變電所に於て各受電して居るのであります。

又揖斐川電氣株式會社よりは七萬七千「ヴォルト」の電壓にて三國變電所に、又今津發電株式會社よりは二萬二千「ヴォルト」送電線により立花變電所に受電し、日本電力株式會社よりは一萬一千「ヴォルト」の電壓にて尼崎變電所に於て受電して居るのであります。

以上の如く發電竝に購入電力は各其方面の配電變電所に至るものにして、全變電所開閉所の



總數は約五十箇所でありまして、大口需用家へは五萬五千、二萬二千、一萬一千或は三千五百「ヴォルト」の電壓を以て又小口需用家へは三千五百「ヴォルト」配電線により更に二百三十「ヴォルト」に降壓し動力供給をして居るのであります。

(ロ) 近江支店

近江支店所屬の發電所は總て發生電壓は三千五百「ヴォルト」であります。之を二萬「ヴォルト」に昇壓して、十箇所の變電所と一箇所の變壓塔へ夫々送電して居るのであります。而して之等相互間も二萬「ヴォルト」の送電線によりて、各々連絡が保たれて居るのであります。變電所に於ては二萬「ヴォルト」の送電を三千五百「ヴォルト」に降下して配電するのであります。電燈の需用に對しては百「ヴォルト」に降壓して供給し、電動力の需用に對しては二百「ヴォルト」にて供給するのであります。

同支店所屬の發電設備にては、近來需用の増加に伴ひ、之に應ずることが出来ないため、彦根町の郊外に正法寺變電所を設けて揖斐川電氣株式會社より大阪へ送電する電力の一部を、七萬七千「ヴォルト」の電壓にて受電し、之を二萬「ヴォルト」に降壓して前記の各配電變電所に供給するのであります。

尙八幡變電所を擴張し、宇治發電所より發生する電力を五萬五千「ヴォルト」の電壓を以て受電し、之を二萬「ヴォルト」に降壓して前記各配電變電所に供給するのであります。

(ハ) 大和支店

大和支店所屬の水力發電所中、白川、迫、天川の各發電所は其の發生電壓三千五百「ヴォルト」でありまして、之を一萬六千五百「ヴォルト」又は四萬四千「ヴォルト」に昇壓して、同支店區域内の各變電所へ送電し、再び之を三千五百「ヴォルト」に降壓して、配電して居るのであります。而して電燈用には百「ヴォルト」、動力用には二百「ヴォルト」の電壓にて、供給するのであります。

尙、白川發電所の發生電力の一部は四萬四千「ヴォルト」にて、摺子假變電所へ送電し、此處にて二萬二千「ヴォルト」に電壓を降下して、之を熊野出張所々屬木本及新宮の兩變電所へ送電して居るのであります。

吉野、檜尾兩發電所の發生電力の電壓は三千二百「ヴォルト」でありまして、之を三萬三千「ヴォルト」に昇壓して、新庄變電所へ送電し、此處に於て更に七萬七千「ヴォルト」に昇壓して本店所屬の寢屋川變電所へ送電するのであります。

(三) 熊野出張所

熊野出張所々屬各發電所の發生電力の電壓は三千五百「ヴォルト」でありまして、發電所より直接に配電するのであります。瀧本發電所、那智發電所、勝浦變電所、西向變電所及新宮變電所を連絡する送電線の電壓は一萬一千「ヴォルト」であります。

木本變電所及新宮變電所は大和支店より受電するのでありまして、二萬二千「ヴォルト」より三千五百「ヴォルト」に電壓を降下して配電するのであります。

而して新宮變電所に於ては更に之を一萬一千「ヴォルト」に昇壓して、勝浦町方面に送電するのであります。

尙、新宮變電所に於ては新宮町所在の新宮電力株式會社より五百「キロワット」の火力電氣を三千五百「ヴォルト」の電壓にて、受電する設備があります。

熊野出張所區域内の供給電壓は電燈百「ヴォルト」、動力二百「ヴォルト」であります。

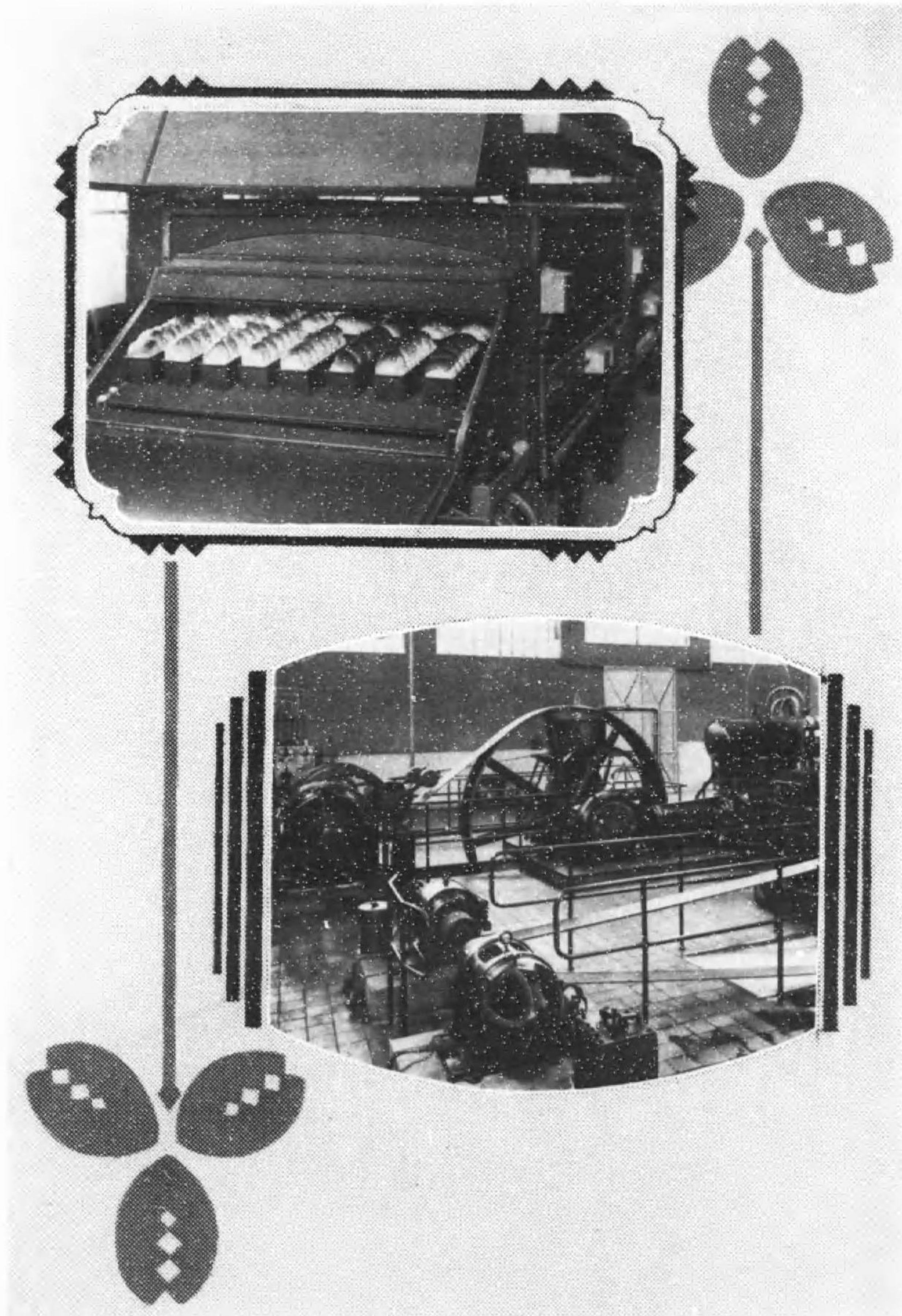
(ホ) 電 鐵 部

電鐵部に於ては主として本店所屬の神戸第二變電所より一萬一千「ヴォルト」の送電線により板宿、大藏谷兩變電所にて受電し、高砂變電所及明石開閉所に於ける山陽中央水電株式會社よりの受電と併せて電鐵用並に附近の電燈、動力用に供給して居るのであります。

尙本會社の供給する電氣の周波数は本店、支店、出張所、電鐵部何れも皆六十「サイクル」であります。

主要既設變電所一覽表(昭和六年九月末日現在)

本店	名	稱	許 可 容 量 (トランス)	所 在 地
野	江	變 電 所	四二、〇〇〇	大阪 市 東 成 區 野 江 町
寢	屋	川 變 電 所	三〇、〇〇〇	大阪 府 北 河 内 郡 寢 屋 川 村
伏	見	變 電 所	一八、〇〇〇	京 都 市 伏 見 區 大 字 下 三 柄
立	花	變 電 所	二二、〇〇〇	兵 庫 縣 尼 崎 市 西 灘 波 村



例一ノ用應-ターモ(設下) (焼ンバ)例一ノ用應熱電(段上)

以上の外受電竝配電變電所三十四箇所開閉所九箇所あります。

近江支店

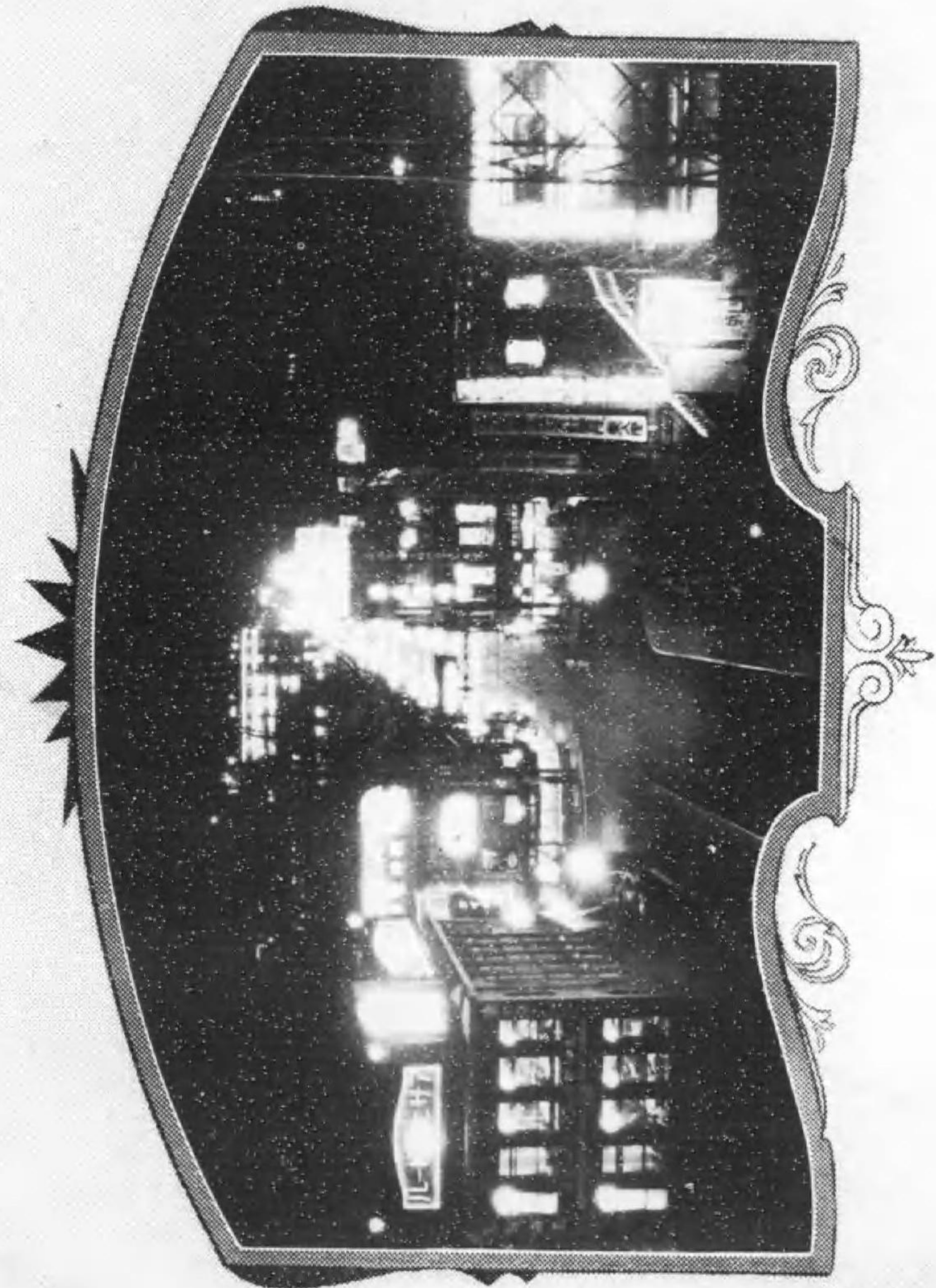
名	稱	許可容量 (キロワット)	所	在	地
長曾根	變電所	一八、〇〇〇	大阪府	南河内郡	金岡村
三國	變電所	六六、〇〇〇	大阪市	東淀川區	三國本町
神戸第一	變電所	四二、〇〇〇	神戸市	五毛通	一丁目
神戸第二	變電所	二四、〇〇〇	神戸市	妙法寺	字前田
浦江	變電所	三〇、〇〇〇	大阪市	西淀川區	浦江町

名	稱	許可容量 (キロワット)	所	在	地
正法寺	變電所	五、四〇〇	滋賀縣	犬上郡	千本村
八幡	變電所	五、四六〇	同	蒲生郡	宇津呂村
彦根	變電所	二、五九八	同	犬上郡	彦根町
長濱	變電所	三、〇〇〇	同	坂田郡	六莊村

以上の外配電變電所及變壓塔合計七箇所あります。

大和支店

名	稱	許可容量 (キロワット)	所	在	地
新庄	變電所	四、五〇〇	奈良縣	北葛城郡	新庄町
御所	變電所	七、五〇〇	同	南葛城郡	御所町
摺子	假變電所	三、三〇〇	同	吉野郡	下北山村



以上の外配電變電所、開閉所及變壓塔十箇所あります。
熊野出張所

名	稱	許可容量 (トリアムール)	所 在 地
新 宮 變 電 所	變 電 所	三、四五〇	和歌山縣東牟婁郡新宮町
本 本 變 電 所	變 電 所	四五〇	三重縣南牟婁郡有井村
勝 浦 變 電 所	變 電 所	四五〇	和歌山縣東牟婁郡那智村
西 向 變 電 所	變 電 所	四五〇	同 西向村
電 鐵 部			
名	稱	許可容量 (トリアムール)	所 在 地
高 砂 變 電 所	變 電 所	一、〇〇〇	兵庫縣加古郡高砂町
板 宿 變 電 所	變 電 所	七五〇	神戸市須磨區平田町
大 藏 谷 變 電 所	變 電 所	七五〇	明石市大藏谷

四、營業狀態

本會社の供給區域は二府六縣七市二百五十五箇町村の頗る廣汎なる地域に跨り、殊に東洋の商工業中心地たる京阪神地方に於きましては、電源の比較的近き爲め低廉なる價格を以て供給する事が出来まして、永劫搖ぎ無き多數の需要家を有して居ることは最も誇りとするところで

あります。加ふるに其需要たるや年を逐うて累増して居る次第であります。今職業別に其需要の状況を瞥見しますると、電気事業方面に於きましては電燈業、電鐵業を第一位とし、其他電動機を使用する需要家に至りましては紡織業、織工業、伸銅業、セメント製造業の外大小の職業を合せまして九十種類に達してゐるのであります。又電熱利用の職業別需要家を見ますると鑄鋼業、食料品製造業、染工業、製薬業外七十種類の多数に及んで居るのであります。之れを見ましても如何に本會社が商工都市に活躍を續けてゐるかの一斑を窺ふことが出来るのであります。

今本會社の大口需要家を挙げて見ますれば、大阪市、神戸市、京都市、南海鐵道株式會社、大阪電気軌道株式會社、京都電燈株式會社、阪神電気鐵道株式會社、阪神急行電鐵株式會社、阪和電気鐵道株式會社等でありまして、京阪神の大都市を不夜城と化し、繁劇なる交通網に貢獻する處亦大なるものがあります。

近來電熱を各種工業や營業に利用せられることが旺んになりましたが、之れは從來熱用として使用せられて居りました木炭、瓦斯、石炭等に比較致しますと、電熱は其能率の良好なること、火加減の均整なること、衛生的なること、人件費や所要場所の經濟的なること等の點に於きまして遙かに優秀なることを認められた結果でありまして、逐次電熱に改良するの有様で此の方面に於ける本會社電力の需要も亦大なるものがあります。

本會社が近江、大和、熊野及兵庫方面に於て經營して居ります電燈事業も亦逐年發展して居

りまして、殊に近年時勢に鑑み電燈、電力の値下を斷行して以來、其業績に於て著しく見るべきものがあります。

昭和六年九月末日現在の本店並に各支店、出張所、電鐵部の電力並に電燈の販賣状況は次の通りであります。

本	近江	大和	熊野	電鐵	動力馬力數	同需要家數	電燈筒數	同需要家數
本店	支店	支店	出張所	部	五〇六、四七八	二二、五四〇	二二四、六九八	九六、四九四
					一一、〇六二	二、八九〇	一〇八、八六一	三五、七九一
					一〇、七六五	八八〇	一〇八、八六一	三五、七九一
					二、三五三	五二九	五八、七四一	二五、〇六六
					一、八九四	七三三	五八、二三九	一八、〇二七

五、電鐵事業の概況

當社は昭和二年一月一日兵庫明石間を走行する兵庫電気軌道株式會社を、並で同年四月一日には明石姫路間を走行する神戸姫路電気鐵道株式會社を合併致しまして、關西方面に於ける名所舊跡を網羅する神戸姫路間約三十六哩の區間を走行する電車を經營するに至つたのであります。本線の沿道は一方海に蒞み他方山を負ひ、次々に展開する風光は、恰も「パノラマ」の如く、乗客をして漫る夢の國に遊ぶの思ひに至らしめます。殊に昭和三年八月二十六日から、

神戸姫路間に直通電車、急行電車を運轉致しまして、運轉時間を短縮し、層一層乗客の利便を圖りつつあるのであります。

一、營業哩 三五・八哩

二、車輛數 (客車七五輛
貨車二四輛)

一、一ヶ年間の乗客人員 一五、七七六、八七八人

一、同上運輸收入 一、七五四、四〇三圓

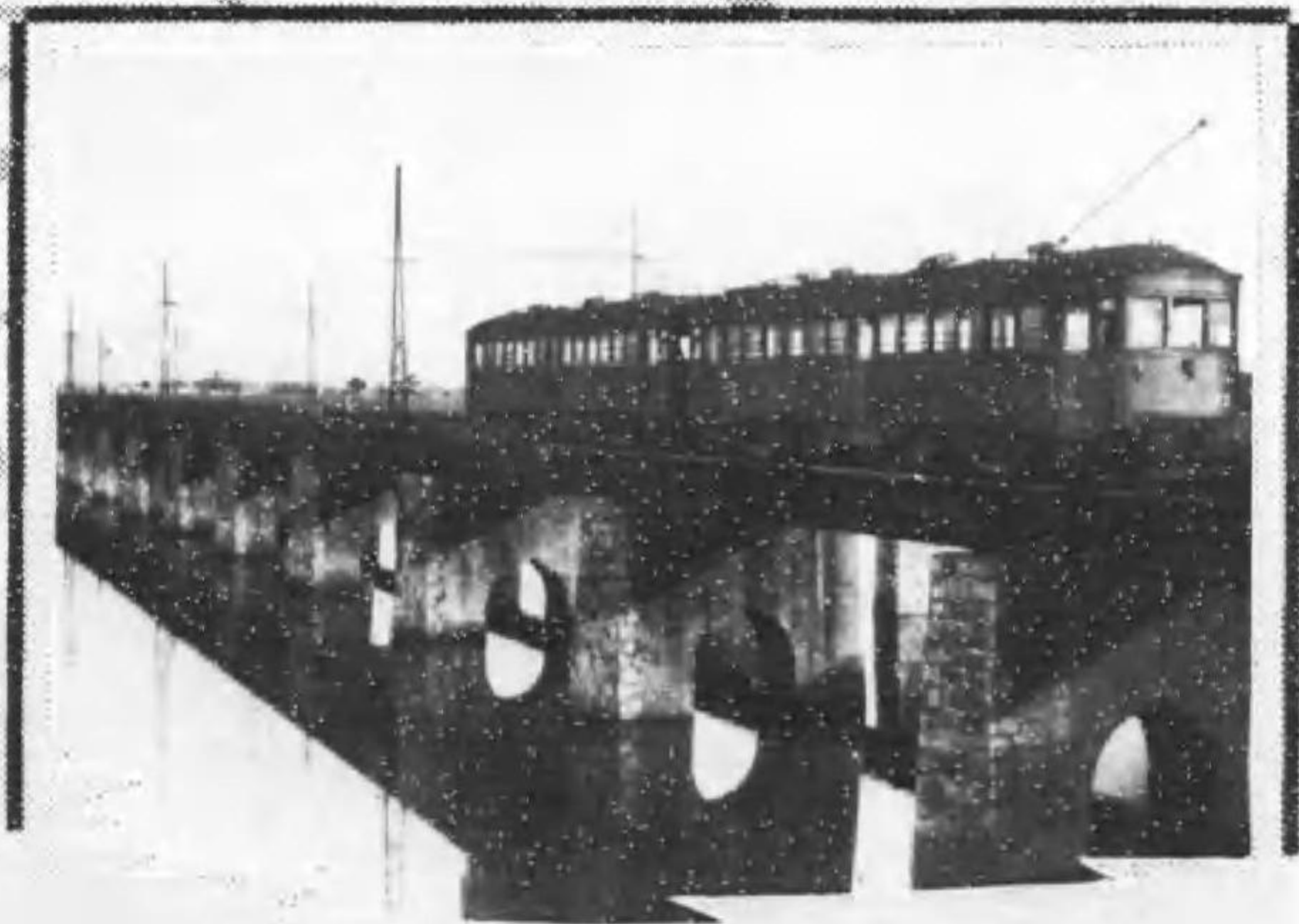
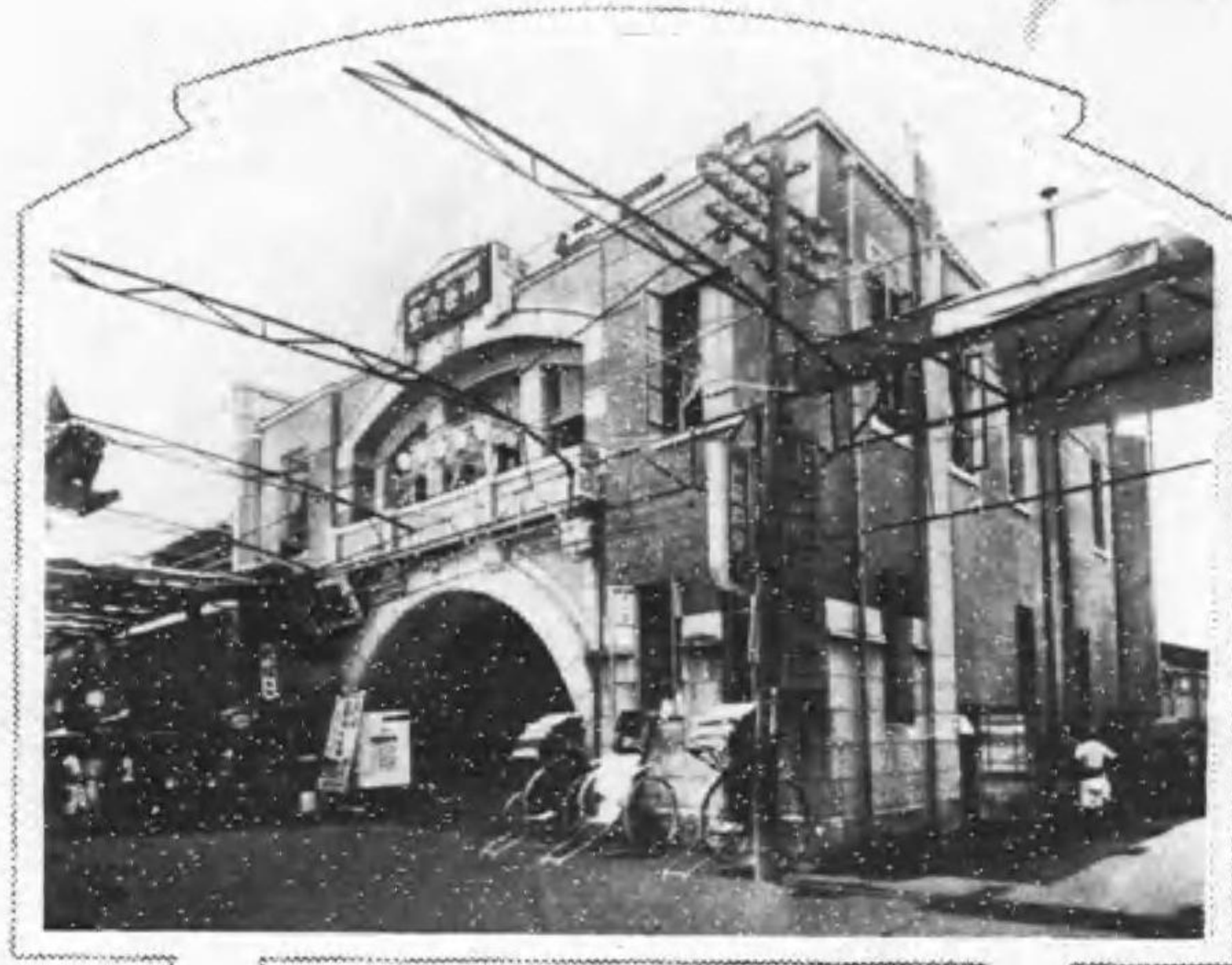
沿線案内

須磨寺公園

須磨寺公園は、須磨停留場北方二丁の所にありまして、園内到處櫻樹梅林點在し、廣域數萬坪に亘る大公園でありまして、有名な須磨寺は、本名を福祥寺と稱しまして、眞言宗高野派に屬します。此附近は源平合戦の史蹟として、辨慶鐘、義經腰掛松、釣竿竹、敦盛塚等の遺物古蹟は枚擧に遑ない程で、平家が安徳帝を擁して、立籠つた時の内裏跡は、公園の西方一の谷の上にあります。

明石公園

明石公園は、明石停留場北方三丁の所にありまして、老松鬱蒼の間に、松平氏八萬石の城址を隠見する時、遊子をして懷舊の情に堪へざらしめるものがあります。盲杖櫻を以て有名な歌聖柿本人丸を祀る人丸神社々前の眺望は、最も宜しく、一葦帯水の間、濃藍の淡路島



橋鐵川古加(設下) 驛路姫(設上)

の眺めは爽快無比で實に自然美の極致であります。附近には又月照寺、権現山、長壽院、休天神等の遺跡に富んで居ります。

舞子濱

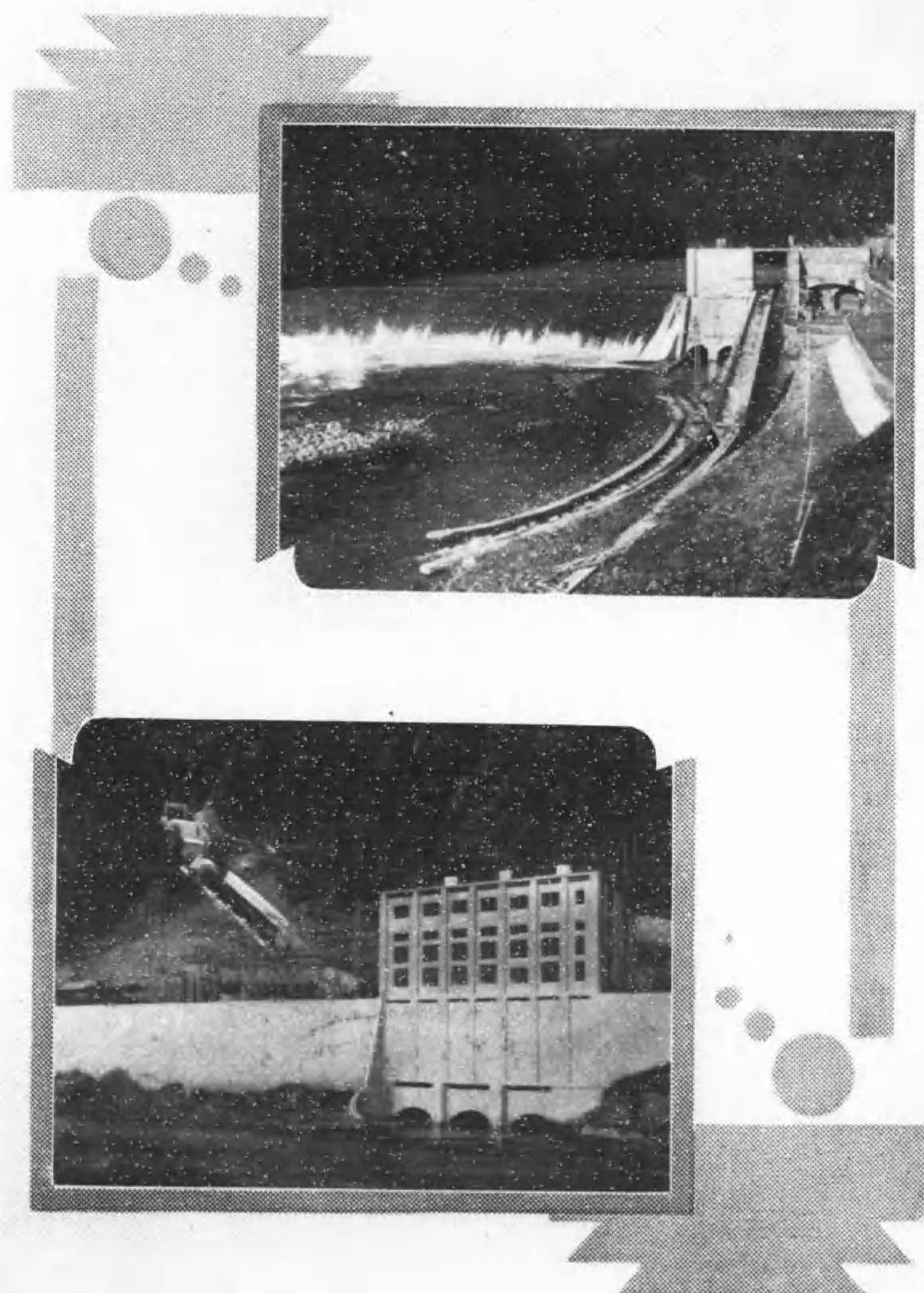
舞子濱は舞子停留場より山田停留場に至る東西約十丁、南北四、五丁の海濱一帯の總稱でありまして、一大公園を形造り風光明媚、前に紺碧の海をひかへて、千姿萬態の老松參差として枝を交へ、白砂に映じまする有様は、實に筆紙に盡し難いものがあります。神功皇后の御草創になります所の海神社は住吉神を祀る官幣中社でありまして公園の東にあります。

石の寶殿

石の寶殿は伊保驛、曾根驛より北方十二丁の縣社生石神社にありまして、石殿を神體として、大穴牟遲命、少名彦名命を祀つたものでありまして、石の寶殿は名所中最も奇觀を極めたもので、幅二丈三尺、高さ二丈六尺の大岩は、丁度社殿を横さまにした恰好をして居りまして、石の上には稚い樹が生え、周囲には水をたたへて、石は恰も浮いて居る様に見えるのであります。昔大穴牟遲命と、少名彦名命が、一夜の中に石の殿堂を造らうとせられたが、中途で夜が明けたので、其まま中止されて、今に遺つて居るのだといふ傳説があります。附近には菅公左遷の途次お手植になつたといふ有名な「曾根の松」があります。

尾上相生の松

尾上相生の松は、尾上の松驛より南方二丁の尾上神社の境内にありまして、神功皇后の御



所電發子摺(段下) 堤堰所電發子摺(段上)

手植になつたもので、高砂の尾上の松も年古りて……と謠曲に名高い初代相生の靈松は、今を去る凡そ八百年以前枯れましたが、古木は化石して今は社務所に藏められてゐます。現在の松は三代目でありまして、四百五十餘年の齡を數へ、雌雄の兩枝は一つの根から生え、高さ凡そ五丈ありまして、枝葉繁茂して百坪に餘るのであります。又境内に古鐘がありまして、尾上の鐘と云ひ、神功皇后が三韓からお持ち歸りになつた物であると傳へられ、裝飾の優美なることは、古鐘中の第一位として推賞せられ、明治十八年天覽に供せられ今は國寶となつておるのであります。

高砂相生の松

高砂相生の松は、高砂驛より南方八丁の縣社高砂神社の境内にありまして、社には伊弉諾、伊弉册の二尊、素盞鳴命、櫛稻田姬命、及び大己貴命が祀つてあります。その起源は非常に古く、社傳によりますと、往古神功皇后三韓征服御凱旋の途、此地に御泊りの砌り一樹の松生立ち、其根が一つで雌雄に異つた枝葉が左右に分れ出で、やがて尉と姥の二神が現はれて云ふに「我は伊弉諾、伊弉册の神なり、我等今より神靈を此の樹に寓せて、伉麗の道を守らん」と即ちこの二神を合祀して更に素盞鳴命、櫛稻田姬命をも祀ると謂うております。

濱の宮グラウンド

濱の宮「グラウンド」は、濱の宮驛南方一丁の處にありまして、六千八百九十餘坪の面積を有し、大野球場、庭球場、其他各種競技の設備がありまして、廣茫三十町歩に餘る濱の宮



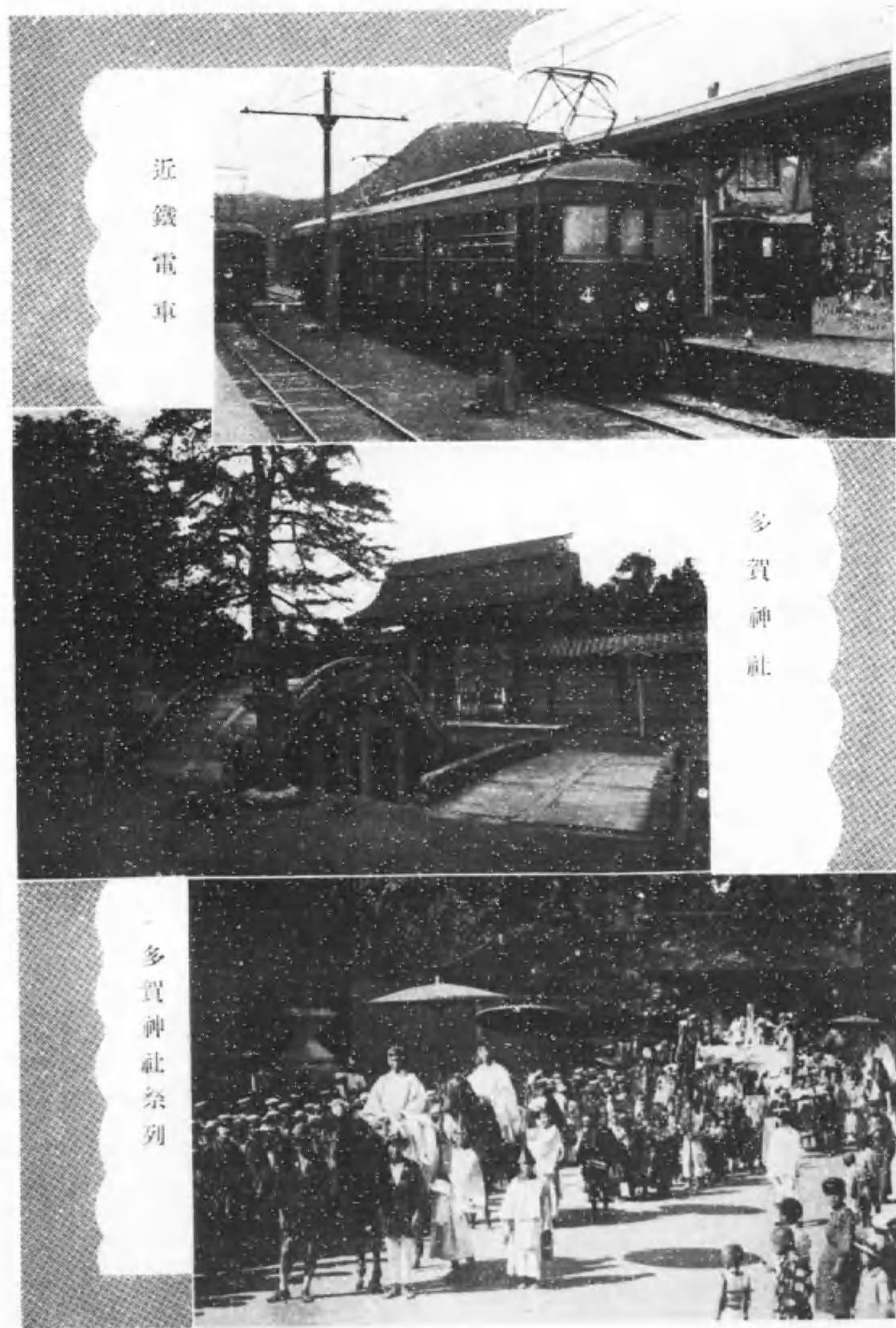
明石海岸



神明バス



車庫



名勝林に連り、實に理想的な大運動場であります。

六、附 録

(イ) 近江鐵道株式會社の概況

近江鐵道株式會社は、我が宇治川電氣會社の姉妹會社でありまして、東海道線彦根から、草津線貴生川に至る二十六哩、同じく彦根米原間三哩六分並社線高宮から官幣大社多賀神社に至る一哩半を走行する鐵道でありまして、昭和三年四月十八日を以て従來の蒸汽に依る列車を改めまして全線の電化を實行し、其發車回数を頻繁に致しまして、専ら旅客の便宜を圖るに努力して居るのであります。尙貴生川から伊賀上野に至る鐵道敷設の免許を得ましたので、將來は伊賀鐵道を通じて參宮急行電鐵に連絡し、一路伊勢の津、山田に行くことが出来、北陸、東海道兩方面から多賀大社並に伊勢大神宮に賽するもの、便宜を得る事になりました、從來に比して其距離と時間を短縮し得るのは勿論、車内の設備係員の取扱振りにも劃時代的の改良を加へらるゝので、旅客の受けられる便益は必ずや大なるものと信ずるのであります。

(ロ) 神明自動車株式會社の概況

神明自動車株式會社も亦我社の姉妹會社でありまして、神戸市内一園並に神戸明石間に於ける乗合自動車、タクシー、貨物自動車の營業を行つて居ります。最近神港タクシー株

式會社及兵神自動車株式會社を合併しましてより幅轉せる旅客及貨物に一層の便益を與へ其業蹟大いに見るべきものがありまして、我社の電鐵部と唇齒輔車の關係にあるものであります。

同社の自動車々数を挙げれば次の如くであります。

- 一、神戸市内バス 七二輛
- 一、神戸明石間バス 一八輛
- 一、タクシー 五五輛
- 一、トラック 一二輛

(ハ) 神姫自動車株式會社の概況

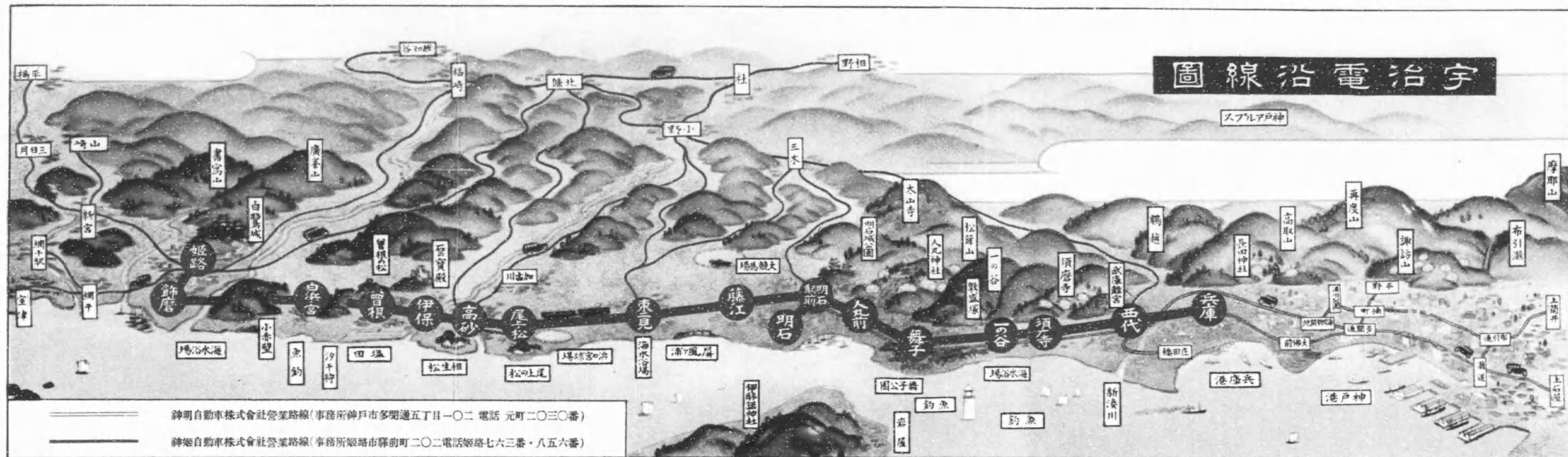
神姫自動車株式會社も同じく我社の姉妹會社でありまして、神明自動車株式會社とその運轉地域を異にし、神戸市以西姫路市を中心とする飾磨郡外十ヶ郡内を縫綴疾驅するものでありましてその延長二百七十哩に及び、我社電鐵部本線に連絡するを以て、同地方旅客の便益も亦大なるものがあります。

同社の自動車々数を挙げれば次の如くであります。

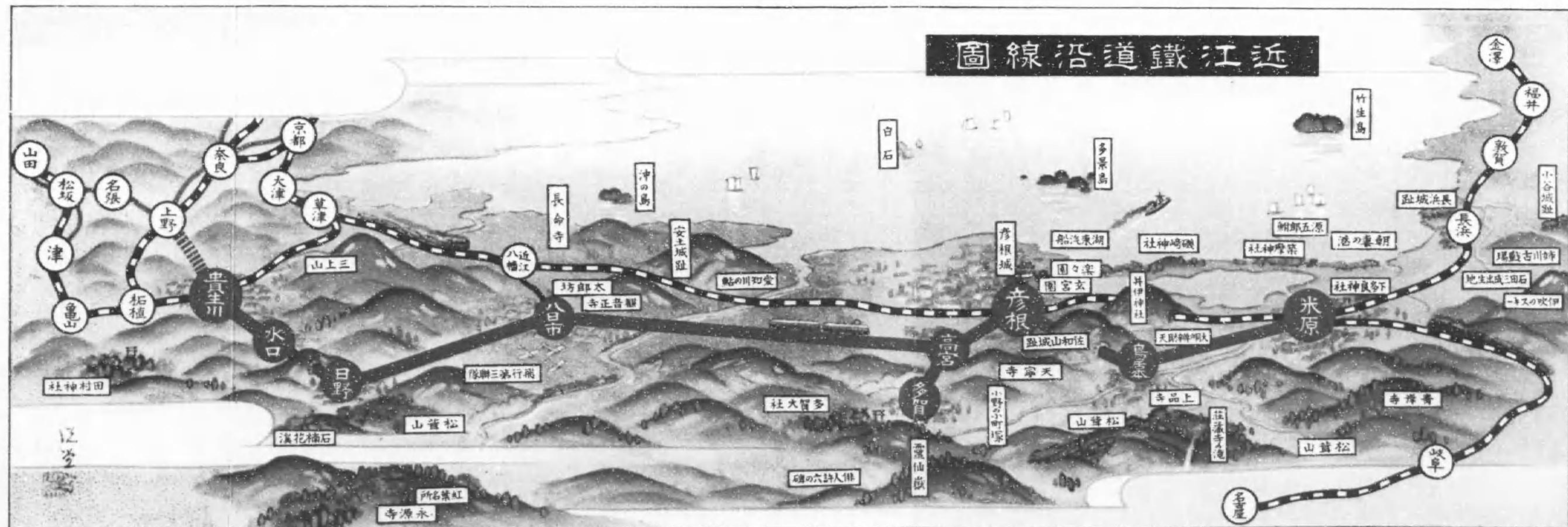
- 一、乗合バス 六二輛
- 一、タクシー 二六輛
- 一、震輻車 一輛
- 一、トラック 一輛



東海道線以東北陸線方面よりの御多賀まるりは米原驛にて同構内にある近江鐵道に御乗換へが御便利であります。

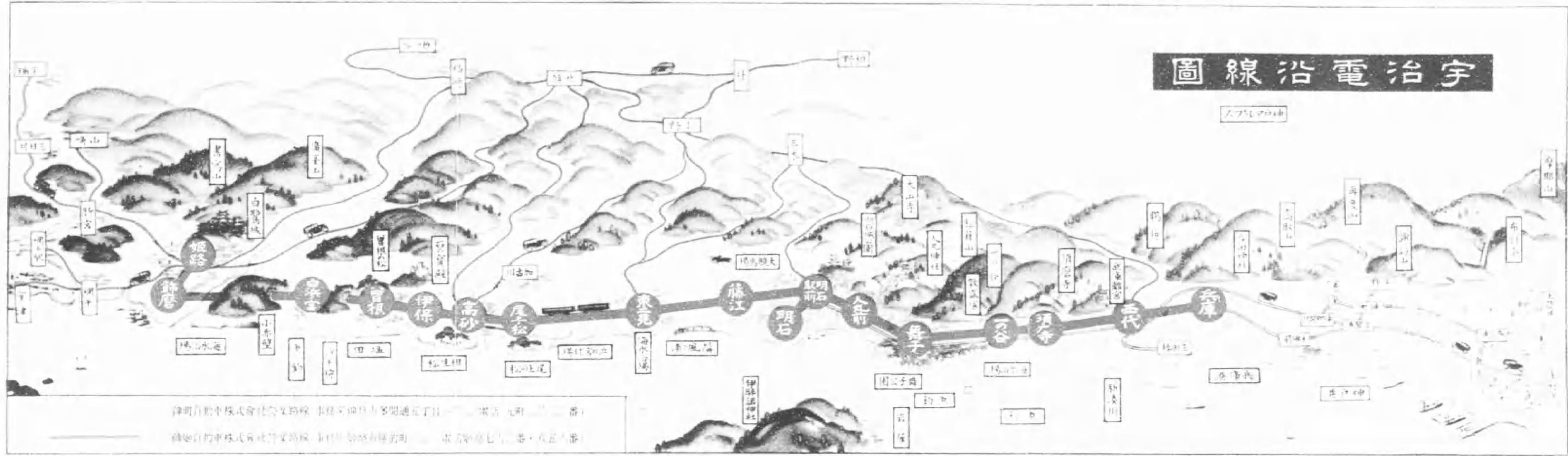


東海道線以東北陸線方面よりの御多賀まゐりは米原驛にて同構内にある近江鐵道に御乗換へが御便利であります。



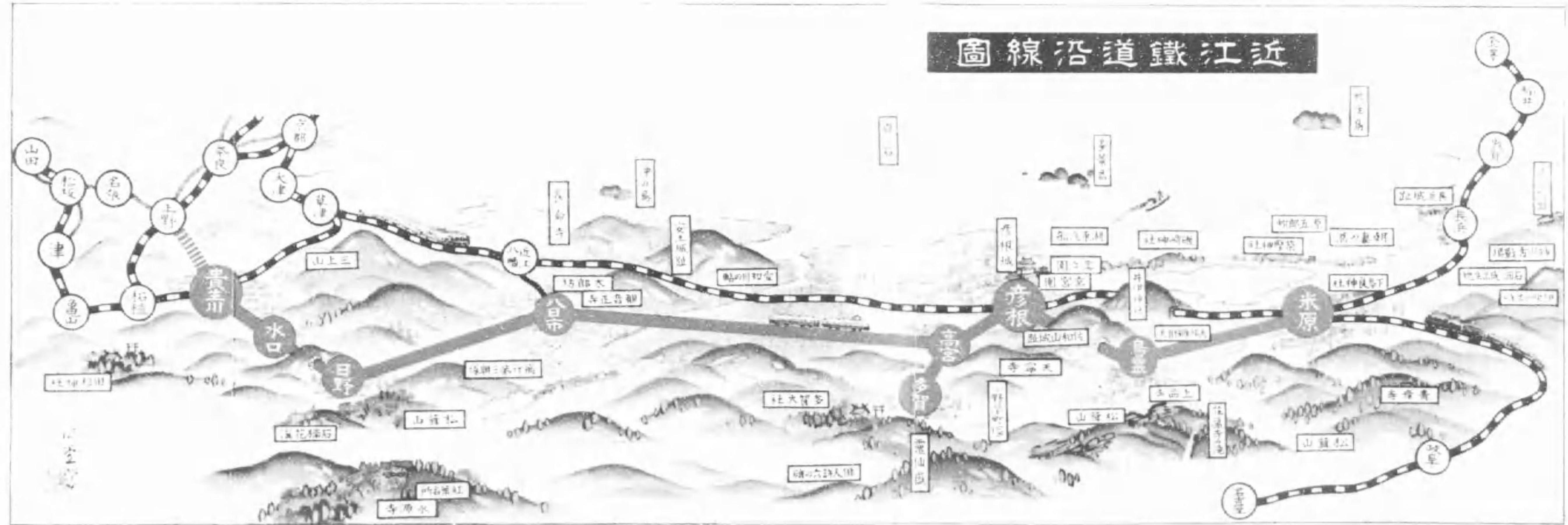
宇治電沿線圖

宇治電の沿線



御明自前中核式會社宇治線 宇治又御前山各間通過了目一 諸站 九町 一 番
 御明自前中核式會社宇治線 宇治又御前山各間通過了目一 諸站 九町 一 番

近江鐵道沿線圖



東海道線以東北陸線方面より
 御多賀まゝのりは米原驛にて同構
 内にある近江鐵道に御乗換へが
 御便利であります。

本、支店所在地

本店 大阪市北區宗是町一番地大阪ビルディング四階

(電話土佐部(44)自六、六〇七)

本店營業所

九條營業所	(電話西(43)三、五七六)	大阪市港區九條南通三丁目二三六
堺營業所	(電話堺(103)四九四)	堺市遠里小野町
玉造營業所	(電話南(75)八、八五四)	大阪市東區小橋西之町一番地ノ四
平野營業所	(電話天王寺(77)八、八三三)	大阪市住吉區平野政所町四丁目
尼崎營業所	(電話土佐部(44)五、一八六)	尼崎市舊城内西三ノ丸五一
惠美須營業所	(電話戎(76)二、二二九)	大阪市浪速區惠美須町三丁目五七
曾根崎營業所	(電話北(36)六〇〇)	大阪市北區小松原町六〇
東野田營業所	(電話東(94)二、八九六)	大阪市北區相生町七八
西野田營業所	(電話土佐部(44)四、八八〇)	大阪市此花區中江町七二
近江支店	滋賀縣犬上郡彦根町	(電話彦根 二二八)
大和支店	奈良縣吉野郡大淀町	(電話下市 一四七)
電鐵部	神戸市須磨區御屋敷通り二丁目	(電話須磨(7)自一、四三三)
熊野出張所	和歌山縣東牟婁郡新宮町	(電話新宮 三五六)
東京出張所	東京市麴町區丸ノ内三丁目十二番地	(電話丸ノ内(23)三、九二〇)

本會社員

監 查 役	監 查 役	監 查 役	取 締 役 支 配 人	取 締 役	取 締 役	取 締 役	取 締 役	取 締 役	取 締 役	取 締 役	取 締 役 副 社 長	取 締 役 社 長
							工 學 博 士					
男 爵 大 倉 喜 七 郎	南 阪 本 仙 次 弘	山 崎 主 計 郎	岸 國 次 郎	瀧 川 儀 作	小 林 轍	永 井 專 三	前 川 善 平	野 口 善 遵	淺 見 又 藏	影 山 銑 三 郎		林 安 繁

昭和六年十二月廿五日印刷
昭和六年十二月三十日發行

大阪市北區宗是町壹番地
宇治川電氣株式會社
大阪市西淀川區大仁町西二ノ二
印刷所 凸版印刷株式會社

終

